全日本男子ヨーロッパ遠征報告

大きな自信をつけて帰国

ソウル目ざして

強化部長・北川勇喜

1 射程距離に入った6位入賞

今回の全日本男子チームのユーゴ遠征には、２つの目的があった。

その第一は、この遠征期間中にソウル・オリンピック候補選手を最終の15人に絞ることであり、第二は、昨年のアジア予選後、６位入賞を目標にこれまで強化してきたチームが、果たしてどれだけ力をつけたかどうか、また、目標達成が可能かどうかを見定めることであった。

第一の目的については、選手選考の重要な基準である、国際試合での闘争心や勝負強さ、さらにソウルでメダルを狙うチームやプレーヤーに対して、どんな状況下でも個々の戦術、技術や能力を十分に発揮できるかどうかをテストするために、ユーゴ滞在期間中の前半はトレーニングマッチを５ゲーム、後半ユーゴカップでオフィシャル５ゲーム計10ゲーム、移動日を除く練習日は、午前・午後２回練習というハードで、しかもサバイバルなせり合いの中でこれに耐え、自分に勝ち、しかも逞しく大きく成長した15人の候補選手を、コーチングスタッフとともに慎重審議の結果選考したのである。

目的の第２については、ユーゴカップに参加したソ連（第１位）、スウェーデン（第２位）、ユーゴ（第３位）・とバルセロナ・オリンピックを目ざしての新生ポーランドとどう戦うか、６位入賞のイメージラインにより近づいたかどうかをチェックすることであった。

この結果、２ｍ、100㎏を越す５人の大男を擁するソ連では完敗をしたものの、世界一のユーゴとは・21対21の引き分け、続くスウェーデン戦は19対18、ポーランドとは28対26と追いつ追われつのシーソーゲームを行ない、しかも、いずれも後半は・日本が追い上げてリードする展開であった。なかでも全日本の戦法でもある、３・２・１のディフェンスフォーメーションは、ヨーロッパの大砲をよく守り、失点を20点台で押さえたことは今後の明るい材料となった。

2 史上最強のチームとの賛辞を受けた全日本チーム

今回のユーゴカップは、ソウル・オリンピックのレフェリーの登龍門でもあった。したがって、世界各国、各ブロックから推薦されたトップレフェリー21ペアがこの大会に参加した。さらに、このペアの中から12ペアにセレクトする審査委員に、日本ではお馴染みのエリック・エリアス氏をはじめ、I・H・Fの錚々たるメンバーもまた顔を揃えていたのである。このような状況の中で、彼らはあわや日本の大金星かと思わせたユーゴ戦の緒戦に驚き、ポーランド戦の後半の追い上げに目を見張り、スウェーデン戦の追いつ追われつの好ゲームに深い関心を寄せた。特に、体格の不利を戦術で克服して守り抜いた動きの激しい、３・２・１のディフェンス力、随所に見せた日本独特のスピード豊かなクィックコンビネーションプレーに対し、これまでの日本チームの中で一番強いチームと絶賛し、ソウルでの日本の活躍が楽しみだとのコメントをスノイ氏を通じて我々に与えてくれたのである。

3 こうして強くなった全日本のチーム

第２戦のボスナモンタージャ（一昨年来日）に完勝したあと、私に地元の協会関係者がドブロ、ドブロと呼んで強く握手を求めて来たが、これは、全日本が２年前ソウル・オリンピック予選突破を目標に、この地方にあるゴザラ山の中腹にキャンプを張ってトレーニングや練習に励んでいた時の全日本や、さらに、ここで数戦ゲームを観戦した当時の日本とは比べものにならないほど素晴らしいチームに脱皮したことへの驚異と羨望の賛辞だったのである。

尚これについては、第３戦の予定地に移動するバスの中でキャプテンの井藤が、キャンプを張ったゴザラの山を見返り、現役としては２度とゴザラ山を見たくないといい、その理由は、あの合宿は、毎日、午前・午後の２回、１時間かかって山を下り、２時間半から３時間の練習を２度繰り返したきつい思い出は今も尚鮮烈であり、もう２度と同じことはごめんだとつぶやきながら、しかし、今日の強い日本を築いた土台であることは間違いないと述懐していたのが印象的だった。

尚、コーチングスタッフに聞くところによれば、この期間、スノイ氏とアスナラジッチ氏が毎日練習に参加して指導や助言をしてくれたそうであり、これまた、今日のチームの育ての親として感謝せずにはいられない。

4 このような過程と基準で選ばれた15人

昨年、ヨルダンでの予選を突破したあと、野間監督中心にソウル・オリンピック6位入賞を目標とした重点強化策が練り直され、方針が明確化された。この内容は、本大会まで14回の国内強化合宿、国際試合としては、アイスランドチームを招聘してのスポーツフェアーと関連試合、７月か８月に外国チーム招待試合計２回の国際試合、遠征計画としては、アイスラ

ンドを中心とした北欧圏、並びにユーゴカップを軸とした計2回の強化遠征であった。さらに、これに加えてオリンピック選手の選考基準は、

①スピードをこなす戦術、技術、能力があること。

②3・2・1のディフェンスフォーメーションをこなせる、予測と先取の能力とフットワークボディバランスを有していること。この要めになるゴールキーピングの技術や能力があること。

③オフェンスポジション（フローター・ポスト・サイド）におけるスペシャリストであること。

④国際試合に対し、闘争心と勝負強さを十分に発揮できること。

⑤ヨーロッパのナショナルチームや・プレーヤーに対し、自分の持っている戦術や技術や能力が十分に発揮できることであり、前述したハードなスケジュールと強化活動を自らが克服し、これらの条件を見事にクリアーした選手15人が今回ソウル・オリンピック選手として、選考されたわけである。

5　ソウルではこのように戦うであろう全日本チーム

ソウル・オリンピックの組み合わせは、日本はBグループに入り、第1戦は20日東ドイツ戦、20日スペイン戦、24日ハンガリー戦、26日韓国戦、28日チェコ戦、30日順位決定戦5位～12位、10月1日決勝戦及び3・4位戦となっている。このような織烈な組み合わせ日程の中で6位入賞を果たすためには、少なくとも予選リーグ5戦の内3勝2敗か2勝2敗1分をしなければならないと考える。したがって、ソウルのターゲットは、緒戦の東ドイツ戦で、この戦々全日本のすべてを出し切って勝利を掴み、続く第2戦、比較的戦いやすいスペイン戦と乗り切り、あとは3戦の中から1勝すればこれが可能だろう。

なかんずく、ユーゴカップのユーゴ戦や・ポーランド、スウェーデンの後半の戦いぶりのように日本が誇るGKを中心として闘志をもって激しく守り、攻撃に際しては、宮下・玉村のロングシューターを、名手コントロールタワーの高村が良く生かし、世界の水準に到達した俊敏な立木のポストプレー、急成長した左サイドのスカイプレーヤーの山村、ムササビシューターの藤井泉によるクィックコンビネーションプレーは、日本の十八番であり、このクィックコンビネーションプレーが、バランスよく前・後半発揮されれば、念願のターゲットを射止めることはむずかしいことではない。きっと逞しく大きく成長した彼らが、日本ハンドボール界の夢を悲願を達成してくれるものと期待し、信じている。

選手たちの感想文から

スコーピェという町

山村敏之

ユーゴスラビア各地で約1週間のトレーニングを経て、5月24日、ユーゴカップの会場であるスコーピェという町に到着した。

ホテルに到着したのは夜の11時をまわっており、あたりはまっ暗で、様子がわからないまま、次の日の朝を迎えた。

そこは山の中腹にあり、多くの緑に囲まれかなり広い敷地内にホテルやバンガローが立ち並び、ユーゴカップに出場する全チームが生活する選手村のような所であった。

大会会場は2ヶ所あり、ホテルからバスで10分程度の体育館と、1時間程度のティトーブ・ベレスという町の体育館が使われたが、どちらも日本で世界大会を行なうときのような立派な体育館とは比べものにはならないほどで、私の目から見れば取りこわしでもしょうか、というようなあまり見栄えのよくない会場だったが、やはりヨーロッパはハンドボールの本場で世界大会を開くだけのことはあり、中は何千人も収容できる立派な体育館で、特にユーゴスラビアとの対戦時には、その会場が超満員となり、観客も熱狂的で、観声、ブーイングなどは日本では絶対味わうことができないほどすさまじいものがあり、さすがヨーロッパであるとあらためて実感した。

また、スコーピェの人々は、アジアの人というか、日本人がとても珍しいようで、私たちの持っている時計、カメラ、特にビデオカメラで試合を撮っていると、観客は試合そっちのけで、そのビデオカメラに興味を示すほどで、やはりユーゴスラビアという国は、まだまだ経済的には日本の足元にも及ばず、かなり生活水準の低い国のように感じた。

特に子供たちは、私たち日本人の書く文字すらとても珍しがり、ユーゴと日本は地理的にもかなり離れた位置にあるが、私はこのような体験をするたびに、距離よりもっと遠い国のような気がした。

スコーピェという町は、ユーゴスラビアの中でも私には耳馴れない地名だったが、一九××年、この町は大地震にあい、かなりの被害が出たのだが、その復旧にかなりの力を注いだのが日本人だということを聞き、スコーピェという町は、日本人にとってまったく無関係ではなかったようであった。

また、スコーピェ滞在中、ユーゴカップに参加して世界のトップ

チームと対等に戦うことができ、私たち日本人がこの町を身近に感じ理解するよりは、「スコーピェ」、「ディトーブ・ベレス」の人々には、この一週間は日本のハンドボールを知りつくしてもらえるだけの十分な活躍と十分な期間があったように思う。

ポーランド戦について

藤井　泉

ユーゴカップにおける第1戦、場所はティトーブ・ベレスというスコーピェからバスで約1時間の所で行なわれた。

全日本チームが、アイスランド戦以外久々の他国の強豪ナショナルチームとの対戦。果たして日本チームが使っているDFシフトである1・2・3DF、及びプレスDFが本当に通用するのか、また、アイスランド戦での善戦がフロックではないのかなどの結果を含めた諸戦となった。会場となった体育館は、収容人員一杯の5千人の超満員となり、その歓声や応援は、日本では考えられないものであった。試合内容はというと、前半こそ固さが見えた日本チームも徐々にペースをつかみ10対14と4点差前半終了。スタッフからのアドバイスと選手の奮起で後半は1～2点を争う一進一退の好ゲームとなり、観衆からも盛大な応援を受けた。しかし、最終的には、後半16―14とリードしたものの26対28で敗れた。

ポーランドの特徴としては、ランニングシュートを打つということ。GKを含めたDF陣もタイミングをズラされ、要所でこのシュートを決められた。その他、自分から打ってパスも回せる長身のセンタープレーヤー、フェイント力を持った強シューターのサイド陣、しかも足が早く、速攻の力も持っている。

各個人が、自分のポジションの役割りを十二分にこなす面はさすがと思わざるをえなかった。我が日本チームもDFでがんばり、速攻にもち込むスピーディな攻撃と、日本のリズムで行なうセットOFで、予想以上の好結果が出、試合には負けたものの、得るものも多かったと思う。ただ、いつもながら最後には、外人の体格を生かしたパワープレーに押されて得点を許してしまうパターンを、これからのさらなる課題として一層の各自のトレーニングで克服する必要があると思った。

ソ連戦について

田口　隆

私たち全日本男子チームは、〝ユーゴカップ〟に参加しました。

その大会で、ポーランド、ユーゴスラビアに続き第3戦目の相手がソ連でした。前回対戦したのは、1年ちょっと前に、イタリアで開かれた世界選手権B大会の時でした。その時は前半の中盤ぐらいまでは、一進一退の展開だったのですが、前半の残り、そして後半に至っては、速攻をたて続けにかけられ、34対17で敗れました。

今回のソ連は前回対戦した時より、また一段と大きくなったようで、1・2・3DFの真ん中の4人とキーパーは平均で2m近くあり、まさに〝壁〟という感じでした。そしてサイドは左右共、とても速く、速攻で得点を許すというケースがとても多かったです。攻撃では、今述べたように速攻が多く、また、セットにおいては、センタープレーヤーの好配球によるポスト、カットインなど、体格を利してのプレーがとても多く見られました。私たち全日本も前半はDFでよく頑張り、得点も挙げる事ができ、後半に望みを託したのですが、高い壁を攻めあぐみ、逆速攻をかけられてしまう一番悪いパターンとなってしまい32対15で敗れました。

今後は、ソ連のような大きさを持つチームには、ペースと共に体格を上回るような運動量が必要となるので、そのためにもスタミナをつける事が最も必要ではないかと思います。

また、今後対戦する機会があれば、前回、今回のゲームの雪辱を果たしたいと思います。

スウェーデン戦について

山本興道

立ち上がり10分ぐらいまで攻撃でリズムがとれず、得点がなかなかとれないものの、4月でのアイスランド戦からよくなってきた1・2・3のディフェンスがよく、確率の悪いところで打たせ我慢の前半でした。ただ反省点として、積極的なディフェンスではなくやや消極的であったように思えました。フローター同士でのパスをカットできる場面やルーズボールで取りに行こうかなどのためらいがあり、日本のペースではありませんでした。しかし、3点ぐらいで我慢していればいつかは追いつけるものです。

後半に入って攻守ともにリズムが出てきて、ラスト1分半で逆転、しかも退場1人が出てしまい簡単にポストに落とされ逆転負けしてしまいました。やはりサイドシュート勝負できるように踏んばれなかったものかと考えさせられた試合でした。

また、逆に日本が6人で相手が5人のときの攻撃を思いきりよくして、攻撃での成功確率をよくできるようにオリンピックめざしてがんばりたいと思います。

ユーゴ戦について

宮下和広

ユーゴとは、ユーゴカップの前のトレーニングマッチで7点差で敗れはしたものの、一時は2点差まで詰めているので、今回はスタートからガツガツくると思い、こちらもその覚悟でゲームに臨んだ。さすがに本大会ともなると、すごい応援で隣りの人間の声も聞こえない状態であった。しかし、前半は、全員が冷静に戦うことができ、井藤さんのナイスキーピングもあり、思うように点が取れ、前半を13−7でリードして折り返すことができた。後半が始まり、場内の応援は過激になり、自分たちも勝ちを意識しすぎたのか、プレーがかみ合わず、6点差はアッという間に追いつかれてしまった。

いつもならこのまま一気に突き放されてしまうと思ったが、チーム一丸となり、必死についていき同点で終ることができた。今までなら、崩れたら立て直しがきかずズルズルやられてしまっていたが、今回は違った。この粘り強さを忘れずに、また、このようなゲームを1点差でもいいから勝てるよう頑張っていきたい。

ユーゴJr戦について

荷川取義浩

ユーゴカップ最終戦、今遠征の最終戦（10試目）とあって、全員疲労が目立っていましたが、全員の力で勝利を収める事ができました。

ゲーム内容としては、全般的に雑なゲームで乱打戦（30対25）になってしまいました。前半、立ち上がりから15分までは一進一退でしたが、15分過ぎからユーゴジュニアにミスが出て、それを全日本が得点に結びつけて結局16対9で前半終了。

後半にはいると、ユーゴジュニアはツートップディフェンスに変えてきた。一時は、全日本のミスもあって3点差まで追い上げたが、ここという時には確実に得点したことは全日本の地力勝ちという結果で終わりました。

ユーゴジュニアは、体格だけを見ればナショナル並みであるが、攻守共にコンビネーションがとれていないため、いったんリズムを崩すと若さが命取りとなって自滅というパターンでした。一方全日本は、この試合だけを見ればミスが多かったのですが、点がほしい時に得点できたのがよかったと思います。

ユーゴ遠征について

奥田新治

5月13日に日本を出発し、5月24日からのユーゴカップにそなえて、ユーゴ各地ならびにスコーピエにて、トレーニング及びゲームを行ない、ユーゴカップにベストコンディションで臨めるようにコンディション調整を行ないながらユーゴカップに挑んだ。

初戦のポーランド戦で26対28と負けはしたものの、各自が自信を持ったと思う。

自分たちのリズムで、自分たちのペースでプレーすれば、強豪チームと接戦する事はできると思う。しかし、接戦し、また、勝つには、イージーなミスを少なくし、相手ディフェンスがオフェンスのポイントを潰しにかかった時にすばやくそれに対応できるようなプレーを身に付ければ、勝つ事もできるのではないかと思った。

私自身、ユーゴスラビア遠征は、3回目であり、また、今回の遠征が最後になると思うが、ユーゴスラビアで学んだ多くのプレー、多くの友人を持てた事に感謝して、ソウル・オリンピックでは6位入賞するように全力でプレーしたい。

ユーゴ国際に参加して

西山　清

我々全日本の得・失点に関する目標は、30得点・20失点である。このユーゴ国際では計5試合行なった中、ソビエト戦を除けば、失点に関してほぼ合格点といってよかったと思う。また、得点については、30得点にはとどかなかったにしても、1試合の時間の経過の中でほぼ安定した点の取り方をしていたと思う。また、それに伴った得点率も今までになくよかったと思う。しかし、すべてが満足のいくものではなかった。少し前の全日本に比べて、デッドタイムが短くなったとはいえ、まだ1試合の中にその時間帯が、10分前後あること。もう一つは、ユーゴ国際では1勝3敗1分、5位という結果に終ったが、まあ贅沢をいえば、3試合は十分勝つチャンスがあったと思う。それほどチームの調子も良かったし、現に各チームのスタッフからの評価も単なる対戦相手ではなく、ライバルのチームとして、日本を見るようになったことも大変大きな成果だと思います。

今回の遠征では、個人個人が多くの成果を得ただけでなく、大変大きな自信を持つことができました。ソウルまでの約3ヶ月間、このユーゴ国際で得た成果と自信を忘れず、これからは良い成果ではなく、良い結果を出せるように頑張っていかなくてはならない。

ハンドボール選手の年齢別走・跳・投能力と体力の関係について

[日本ハンドボール協会・トレーニングドクター群]
阿部徳之助（自治医大）、新井節男（関西学院大学）、
宇津野年一（名古屋工業大学）、森田俊介（山口大学）、
山崎　武（大阪体育大学）、小山啓央（中京大学）、
早川清孝（京都市立芸術大学）、水上　一（筑波大学）、
竹内正雄（星薬科大学）、土井秀和（大阪教育大学）、
福井孝明（大阪経済大学）、栗岩淳一（都立日野高校）、
宮沢恒夫（高井戸中学校）、森川寿人（九州女子大学）、
西山逸成（防衛大学）

Ⅰ．はじめに

本研究は、昭和60年度日本体育協会スポーツ医科学研究の競技種目別競技力向上に関する研究の「ハンドボールプレーヤーの体力に関する横断的研究報告」を利用して、特にハンドボール競技に関係の深いと思われる項目のなかから、12歳より23歳までの年齢別によるハンドボール選手の走力（50 m、1500 m)、投（ハンドボール)、跳（垂直とび）と，これら走・投・跳が体格や体力および運動能力との間にどのような相関関係にあるかを分析し、ハンドボール選手の競技力向上のための基礎資料づくりを目的として検討した。

Ⅱ．方　法

「スポーツテスト」の種目は、体格として身長、体重の２種目、「体力診断テスト」として反復横とび、垂直とび、背筋力、握力（左・右)、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏台昇降運動の７種目、「運動能力テスト」として50 m 走、走り幅跳び、ハンドボール投げ、懸垂、持久走（1500 m）の５種目で合計14種目である。体力測定は昭和60年４月から同年10月に行なった。

また、運動群（昭和60年度運動能力調査報告書の週３日から４日以上運動している者）とハンドボール選手を比較検討した。なお、運動群の22～23歳は資料がないので比較できなかった。

Ⅲ．結　果

１．年齢別によるハンドボール選手と運動群との体格、走・投と跳の比較と運動群の12歳から23歳までの身長と体重の比較を示した。

1)体　格

図１、図２は、12歳から23歳までのハンドボール選手と運動群の身長と体重を比較したものである。

ハンドボール選手の身長は、12歳の155.9±8.74 cm で年齢の増加につれて大きく，20歳の182.1±5.92 cm で最大値を示した。また、ハンドボール選手と運動群との比較では、中学期、高校期の12歳から18歳をみると、12歳と15歳でハンドボール選手の方が有意（P<0.01）に大きい値を示した。しかし、その他の年齢ではハンドボール選手の方が明らかに大きかった（P<0.01)。ハンドボール選手は体重でも身長と同じ傾向がみられた。運動群と比べると、中学期、高校期の12歳から18歳までをみると、12歳はハンドボール選手のほうが運動群より明らかに大きい値を示した。他の年齢では両者ともほぼ同じ大きさであった。19歳以降は明らかにハンドボール選手のほうが大きかった。

2)走力=50 m、1500 m

図3-1，図3-2は、12歳から23歳までの50 m 走と1500 m 走のハンドボール選手と運動群とで比較したものである。

50 m 走をみると（図3-1)、ハンドボール選手では、12歳は8.2±0.15秒で18歳まで年齢が増するにつれて時間が短縮された。18歳から23歳まではあまり変化はみられなかった。

これを運動群と比較してみると、12歳ではハンドボール選手の方が統計的に有意に高かった（P<0.01)。しかし、13歳から17歳まではほぼ同じ値を示し、18歳から20歳まではハンドボール選手の方が有意に高い値

表 1-1　50 m 走と体格・体力・運動能力の相関係数　※※：P<0.01　※：P<0.05

年齢	人数	身長	体重	反復横とび	垂直とび	背筋力	握力		伏臥上体そらし	体前屈	H・S・T	走り幅とび	ハンドボール投げ	懸垂	1500m走
							右	左							
12才	92	※※ −0.57	※ −0.253	※※ −0.489	※※ −0.621	※※ −0.521	※※ −0.611	※※ −0.605	−0.118	−0.106	−0.112	※※ −0.763	※※ −0.630	※※ −0.297	※※ 0.62
13才	154	※※ −0.518	※※ −0.279	※※ −0.317	※※ −0.588	※※ −0.650	※※ −0.615	※※ −0.665	−0.140	−0.042	−0.174	※※ −0.736	※※ −0.610	※※ −0.389	※※ 0.593
14才	185	※※ −0.422	※ −0.249	※※ −0.282	※※ −0.575	※※ −0.458	※※ −0.467	※※ −0.520	−0.171	0.110	0.011	※※ −0.656	※※ −0.528	−0.157	※※ 0.371
15才	127	−0.105	0.024	−0.151	※※ −0.291	−0.037	※ −0.242	※※ −0.296	0.000	0.026	−0.046	※※ −0.407	※※ −0.469	※※ −0.264	※※ 0.311
16才	97	※※ −0.326	※※ −0.289	※※ −0.497	※※ −0.553	※※ −0.476	※※ −0.397	※※ −0.430	−0.027	−0.055	−0.113	※※ −0.694	※※ −0.402	※※ −0.530	※※ 0.293
17才	129	−0.116	−0.148	※ −0.236	※※ −0.442	※※ −0.394	※※ −0.382	※※ −0.377	−0.096	−0.084	0.170	※※ −0.586	※※ −0.423	※※ −0.273	※ 0.222
18才	136	−0.123	−0.083	※ −0.248	※※ −0.518	※※ −0.402	※※ −0.313	※※ −0.338	−0.137	※※ −0.269	−0.076	※※ −0.544	※※ −0.419	※※ −0.259	※※ 0.332
19才	27	−0.221	−0.254	−0.212	−0.274	−0.202	※ −0.439	※ −0.413	0.169	−0.059	−0.084	−0.346	※※ −0.501	※※ −0.716	0.281
20才	28	−0.247	−0.193	※ −0.462	※※ −0.504	※ −0.412	※※ −0.492	−0.144	0.104	−0.268	−0.324	−0.206	※※ −0.583	0.169	0.321
21才	17	※※ 0.742	※※ −0.675	−0.210	※ −0.562	−0.474	−0.467	−0.050	−0.078	−0.250	−0.395	−0.213	※※ −0.857	※※ −0.775	0.077
22才	12	−0.461	※ −0.554	0.275	−0.261	0.336	−0.287	0.032	0.379	−0.375	0.247	−0.409	−0.263	※※ 0.701	−0.321
23才	12	0.417	※ 0.598	−0.289	0.034	−0.431	−0.417	0.353	0.527	−0.043	−0.023	※※ −0.717	−0.394	0.138	0.188

表1-2　持久走(1500 m)と体足・体力・運動能力の相関係数　※※：P<0.01　※：P<0.05

年齢	人数	身長	体重	反復横とび	垂直とび	背筋力	握力		伏臥上体そらし	体前屈	H・S・T	50m走	走り幅とび	ハンドボール投げ	懸垂
							右	左							
12才	92	※※ −0.325	0.021	※※ −0.422	※※ −0.294	※※ −0.366	※※ −0.311	※※ −0.311	−0.023	−0.095	※ −0.235	※※ 0.620	※※ −0.543	※※ −0.447	※ −0.231
13才	154	※※ −0.320	−0.126	※※ −0.291	※※ −0.437	※※ −0.381	※※ −0.430	※※ −0.435	−0.017	−0.046	−0.055	※※ 0.593	※※ −0.585	※※ −0.480	※※ −0.374
14才	185	−0.051	0.031	−0.091	−0.122	−0.099	−0.146	※ −0.196	−0.024	0.165	−0.126	※※ 0.371	※ −0.250	−0.191	−0.141
15才	127	0.092	※ 0.205	−0.115	0.035	0.034	0.067	0.033	0.132	0.018	−0.086	※※ 0.311	※※ −0.354	※ −0.227	※ −0.254
16才	97	−0.111	−0.018	−0.122	−0.078	−0.112	−0.035	−0.014	0.167	0.095	※※ −0.296	※※ 0.293	※ −0.242	−0.164	0.001
17才	129	−0.044	0.118	※※ −0.430	※ −0.241	※ −0.221	−0.161	−0.183	−0.160	−0.141	※ −0.197	※ 0.222	−0.124	※※ −0.371	※※ −0.434
18才	136	−0.126	0.158	※※ −0.479	※ −0.218	※※ −0.306	−0.028	−0.110	−0.131	−0.004	−0.143	※※ 0.332	※※ −0.334	※※ −0.335	※※ −0.500
19才	27	−0.001	−0.147	※※ −0.539	※※ −0.562	−0.182	※ −0.428	−0.219	−0.022	−0.233	−0.140	0.281	※ −0.444	−0.315	−0.267
20才	28	0.041	0.038	−0.187	※ −0.413	−0.066	−0.212	−0.001	−0.329	−0.317	−0.025	0.321	−0.340	−0.217	−0.060
21才	17	−0.247	0.017	0.400	0.161	0.170	0.258	0.190	−0.045	0.042	0.065	0.077	0.145	0.120	0.013
22才	12	0.441	0.199	※※ 0.780	※ 0.780	0.134	0.568	−0.094	0.189	0.263	0.189	−0.321	0.274	0.227	0.070
23才	12	0.345	※ 0.639	−0.343	0.355	−0.171	0.053	0.163	−0.034	−0.324	0.218	0.251	−0.517	0.481	−0.028

表2　ハンドボール投げと体格・体力・運動能力の相関係数　※※：P<0.01　※：P<0.05

年齢	人数	身長	体重	反復横とび	垂直とび	背筋力	握力		伏臥上体そらし	体前屈	H・S・T	50m走	走り幅とび	懸垂	1500m走
							右	左							
12才	92	※※ 0.585	※※ 0.453	※※ 0.602	※※ 0.499	※※ 0.595	※※ 0.646	※※ 0.548	0.196	※ 0.208	−0.071	※※ −0.630	※※ 0.579	※※ 0.399	※※ −0.447
13才	154	※※ 0.544	※※ 0.491	※※ 0.396	※※ 0.649	※※ 0.570	※※ 0.746	※※ 0.674	※ 0.224	0.167	0.092	※※ −0.610	※※ 0.673	※※ 0.521	※※ −0.480
14才	185	※※ 0.514	※※ 0.405	※※ 0.375	※※ 0.507	※※ 0.478	※※ 0.575	※※ 0.594	0.134	0.080	−0.010	※※ −0.528	※※ 0.479	※※ 0.273	−0.191
15才	127	※※ 0.274	※※ 0.378	0.159	※※ 0.277	※※ 0.281	※※ 0.337	※※ 0.301	−0.119	−0.010	−0.072	※※ −0.469	0.192	※ 0.239	※ −0.227
16才	97	※※ 0.302	※※ 0.272	※※ 0.289	※※ 0.283	※※ 0.392	※ 0.221	※※ 0.303	0.021	0.140	−0.100	※※ −0.402	※※ 0.440	0.129	−0.164
17才	129	※ 0.204	※※ 0.323	※※ 0.257	※※ 0.425	※※ 0.350	※※ 0.345	※※ 0.322	0.103	0.063	−0.034	※※ −0.423	※※ 0.388	0.175	※※ −0.371
18才	136	※※ 0.347	※※ 0.389	※ 0.234	※※ 0.414	※※ 0.523	※※ 0.411	※※ 0.366	※ 0.250	0.155	※※ 0.104	※※ −0.419	※※ 0.261	0.126	※※ −0.335
19才	27	※ 0.485	※※ 0.600	0.367	※ 0.477	※※ 0.663	※※ 0.491	※ 0.465	−0.120	0.180	0.592	※※ −0.501	0.231	−0.369	−0.315
20才	28	0.374	※※ 0.487	0.362	※ 0.393	※ 0.413	※※ 0.497	0.287	0.072	0.328	※※ 0.504	※※ −0.583	0.068	−0.346	−0.217
21才	17	0.479	※ 0.578	0.188	※ 0.529	※※ 0.711	0.476	0.142	−0.016	0.237	※ 0.560	※※ −0.857	0.054	※※ 0.761	0.120
22才	12	0.161	0.054	0.352	0.352	0.091	※ 0.664	0.146	※ 0.678	※ 0.624	−0.137	−0.263	0.066	−0.484	0.481
23才	12	0.213	0.276	−0.009	−0.035	−0.358	−0.152	0.035	−0.664	−0.457	0.063	0.103	0.046	−0.484	0.481

表3　垂直とびと体格・体力・運動能力の相関係数　　※※：P<0.01　※：P<0.05

年齢	人数	身長	体重	反復横とび	背筋力	握力		伏臥上体そらし	体前屈	H・S・T	50m走	走り幅とび	ハンドボール投げ	懸垂	1500m走
						右	左								
12才	92	※※ 0.556	※※ 0.310	※※ 0.591	※※ 0.430	※※ 0.572	※※ 0.552	※※ 0.318	※ 0.227	※ 0.217	※※ −0.621	※※ 0.561	※※ 0.499	0.194	※※ −0.294
13才	154	※※ 0.458	※※ 0.345	※※ 0.541	※※ 0.511	※※ 0.709	※※ 0.612	※ 0.244	※※ 0.284	0.134	※※ −0.588	※※ 0.568	※※ 0.649	※※ 0.419	※※ −0.437
14才	185	※※ 0.398	※※ 0.295	※※ 0.294	※※ 0.501	※※ 0.475	※※ 0.515	※ 0.241	0.028	0.103	※※ −0.575	※※ 0.556	※ 0.507	0.165	−0.122
15才	127	0.180	0.102	※※ 0.410	※※ 0.382	※※ 0.349	※※ 0.414	※ 0.226	0.193	※ 0.244	※※ −0.291	※※ 0.494	※※ 0.277	※※ 0.432	0.035
16才	97	0.160	0.109	※※ 0.321	0.163	※※ 0.289	※※ 0.291	0.125	※ 0.233	0.009	※※ −0.553	※※ 0.428	※※ 0.283	※※ 0.281	−0.078
17才	129	0.111	0.082	※ 0.240	※ 0.218	※※ 0.363	※※ 0.342	※ 0.213	0.088	−0.124	※※ −0.442	※※ 0.436	※※ 0.425	※※ 0.307	※ −0.241
18才	136	※※ 0.260	0.114	※ 0.201	※※ 0.256	※※ 0.360	※※ 0.345	※ 0.243	※※ 0.348	−0.135	※※ −0.518	※※ 0.490	※※ 0.414	※※ 0.314	※ −0.218
19才	27	0.037	0.325	※※ 0.806	※※ 0.638	※ 0.485	0.212	0.072	0.221	※※ 0.552	−0.274	※※ 0.691	※ 0.477	0.324	※※ −0.562
20才	28	−0.049	−0.030	0.283	0.345	※ 0.389	0.265	0.064	※※ 0.672	0.097	※※ −0.504	※ 0.429	※ 0.393	−0.072	※ −0.413
21才	17	0.382	0.415	0.256	0.301	※ 0.526	0.081	−0.102	0.167	0.247	※ −0.562	0.493	※ 0.529	0.470	0.161
22才	12	※ 0.621	0.440	0.141	0.087	0.525	0.106	0.190	−0.008	0.237	−0.311	0.479	0.352	0.138	※※ 0.780
23才	12	0.427	−0.018	−0.081	−0.058	−0.136	−0.301	0.255	−0.024	0.238	−0.120	−0.064	−0.035	0.034	0.355

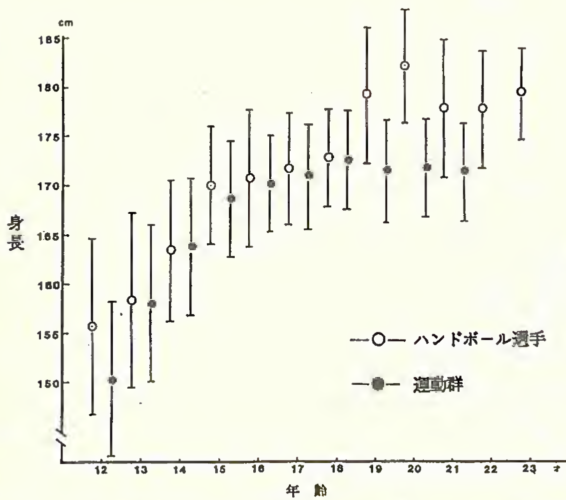


図1　年齢別によるハンドボール選手と運動群との身長比較

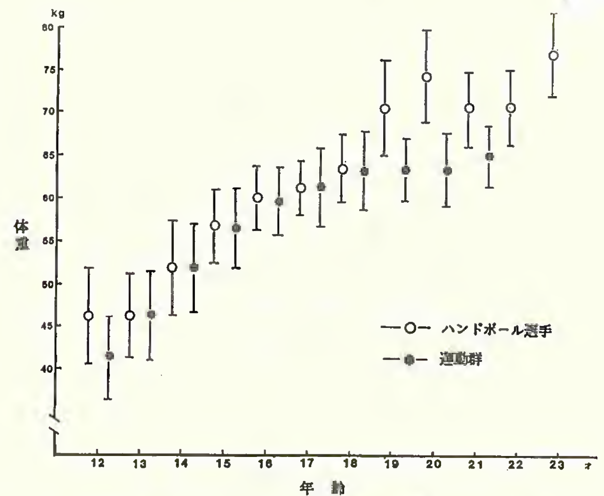


図2　年齢別によるハンドボール選手と運動群との体重比較

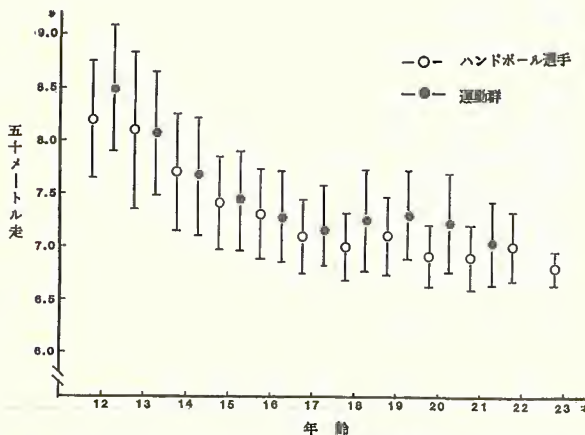


図3-1　年齢別によるハンドボール選手と運動群との50 m 走の比較

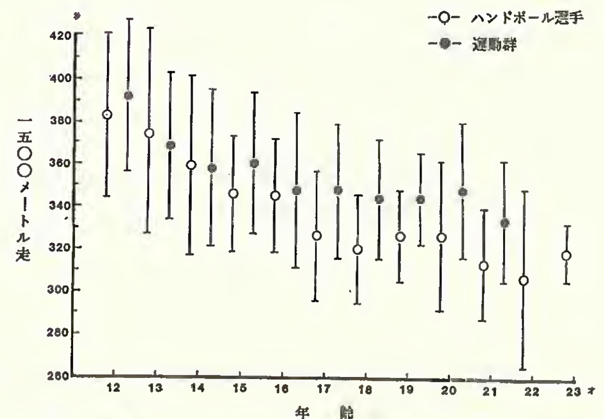


図3-2　年齢別によるハンドボール選手と運動群との1500 m 比較

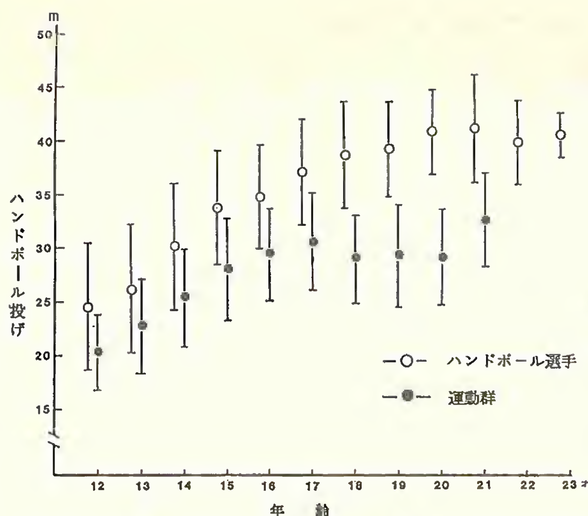


図４　年齢別によるハンドボール選手と運動群とのハンドボール投げの比較

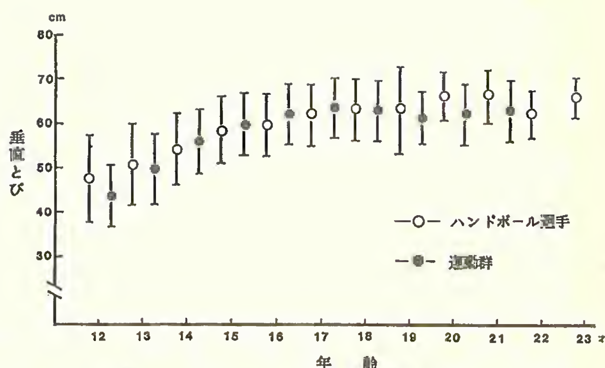


図５　年齢別によるハンドボール選手と運動群との垂直飛びの比較

を示した（P<0.01～P<0.05)。

1500ｍ走をみると（図3-2）12歳382.5±39.0秒から18歳320.8±26.16秒まで年齢の増加とともに時間が短縮された。18歳から23歳までは波状的に変化し23歳では、319.3±14.37秒であった。

これを運動群と比較してみると、13歳、14歳と16歳では、ほぼ同じ値であり、これをのぞく年齢ではハンドボール選手が運動群より有意に高い値を示した（P<0.01)。

3)投＝ハンドボール投げ

ハンドボール投げ（図４）をみると、12歳24.6±5.93ｍから21歳の40.90±4.86ｍまで年齢とともに増加した。その後は下降の傾向を示し、23歳で41.3±2.07ｍであった。これを運動群と比較してみると、すべての年齢でハンドボール選手の方が有意に高い値を示した（P<0.01)。

4)跳＝垂直とび

垂直とび（図５）をみると、12歳では47.4±9.81 cmで、年齢の増加とともに僅かずつ向上傾向がみられ、20歳で66.3±5.78 cmとほぼピークに達し、その後は下降傾向を示した。これを運動群との比較では、12歳と20歳、21歳のみの年齢にハンドボール選手の方が有意に（P<0.01～P<0.05）高く、また14歳と16歳では運動群の方が有意（P<0.05）に高かった。

２．ハンドボール選手の走・投・跳力と体格、体力および運動能力との相関々係

表1-1、表1-2、および表２、表３は、12歳から23歳の走・投・跳と体格・体力・運動能力の相関関係を示したものである。

1)走力＝50ｍ走

50ｍ走が体格や体力および運動能力とどのような関係にあるかを検討してみると、中学期（12歳から14歳）の体格では、表１に示すように相関係数は、身長で－0.422から－0.570、体重では－0.249から－0.279の相関係数で、有意（P<0.01～P<0.05）な相関関係を示している。このことは、中学生の発育期の段階では50ｍ走は、身長、体重に密接に関係していることがうかがわれる。

また、高校期（15歳から18歳）では16歳で身長－0.326、体重－0.289を除くと、相関係数も小さく、有意な相関関係はみられなかった。さらに、青年期（19歳から23歳）の身長では、21歳の0.742、体重では21歳から23歳で0.598から0.675で、有意（P<0.01～P<0.05）な相関関係を示したが、その他の年齢では有意な相関はみられなかった。

次に体力診断の種目との関係では、中学期の反復横とび、垂直とび、背筋力、握力（左・右）の４種目が相関係数も高く、有意（P<0.01～P<0.05）であった。高校期では、両者の関係は中学期の発育段階とほぼ同じ傾向で、有意（P<0.01～P<0.05）であった。これをさらに青年期の19歳の握力（左・右)、20歳の反復横とび、垂直とび、背筋力、握力（右)、21歳の垂直とびなどの種目では有意（P<0.01～P<0.05）であったが、他の種目では有意ではなかった。

運動能力種目の中学期で走り幅跳び、ハンドボール投げ、懸垂、1500ｍ走の４種目で相関関係がみられ（P<0.01)、その中でも特に走り幅跳び、ハンドボール投げの係数が高かった。

高校期は走り幅跳び、ハンドボール投げ、懸垂、1500ｍ走の種目が有意（P<0.01～P<0.05）で、青年期の23歳の走り幅跳びと、19歳から21歳までの年齢では、ハンドボール投げと懸垂、21歳と22歳では懸垂だけが有意（P<0.01）であった。

全体的にみると、50ｍ走と相関々係にある種目としては、垂直とび、背筋力、握力、ハンドボール投げ、および懸垂などの種目に高い相関関係がみられた。

2)走力＝1500ｍ走

1500ｍ走（表1-2）が体格にどのような関係にある

かをみると、中学期の身長で12歳と13歳で有意（P<0.01）で、体重とでは有意でなかった。また、高校期で15歳の体重だけが有意（P<0.01）で、それ以外の年齢をみると、体格とでは相関係数も小さく、相関関係がみられなかった。

青年期では23歳の体重だけが有意（P<0.01）であった。また、体力診断の中学期で、12歳と13歳で反復横とび、垂直とび、背筋力、握力（左・右）の種目が有意（P<0.01）で14歳の握力（左）を除くと、他の種目とでは有意な関係はみられなかった。

高校期の16歳で踏台昇降運動、17歳と18歳の反復横とび、垂直とび、背筋力で有意（P<0.01～P<0.05）で、その他の種目には有意な関係はみられなかった。青年期では19歳の反復横とび、垂直とび、握力、20歳の垂直とびと22歳の反復横とび、垂直とびなどの種目が有意（P<0.01～P<0.05）であった。

さらに、運動能力の種目との関係で、中学期の14歳のハンドボール投げと懸垂を除けば、50 m、走り幅跳び、ハンドボール投げ、懸垂の種目で有意（P<0.01～P<0.05）であった。

また、高校期で16歳のハンドボール投げ、懸垂、そして17歳の走り幅跳びを除くと、それぞれの種目が有意（P<0.01～P<0.05）で青年期の19歳の走り幅跳びだけが有意（P<0.05）であった。

これを全体的にみると、1500 m 走と相関関係にある種目では、垂直とび、50 m 走、走り幅跳びなどの種目に深い関係がみられた。

3)投げ＝ハンドボール投げ

ハンドボール投げが、体格や体力そして運動能力にどのような関係にあるかをみると（表2）中学期と高校期の体格の身長・体重では相関係数も大きく、有意で（P<0.01～P<0.05）青年期の19歳で身長と体重、20歳と21歳の体重にそれぞれ有意（P<0.01）であった。

次に体力診断の種目では、中学期で反復横とび、垂直とび、背筋力、握力（左・右）などの種目での相関係数が高く有意（P<0.01）で、伏臥上体そらしと体前屈、踏台昇降運動の種目では相関係数が小さく有意でなかった。

高校期の15歳の反復横とびを除く他の種目で有意（P<0.01～P<0.05）であった。

青年期では、垂直とび、背筋力、握力（左・右）踏台昇降運動の種目が有意であった（P<0.01～P<0.05)。

運動能力の種目との関係では、中学期の50 m 走、走り幅跳び、懸垂、1500 m 走が有意（P<0.01）であったが、しかし14歳の1500 m 走に有意な相関関係はみられなかった。

高校期では、50 m 走、走り幅跳び、1500 m 走などの種目が有意（P<0.01～P<0.05）で、青年期の19歳から21歳の50 m 走と21歳の懸垂が有意で、他の種目では有意ではなかった。

さらに、これを全体的にみると、ハンドボール投げとの相関関係は、身長や体重、垂直とび、背筋力、握力、50 m 走などの種目に深い相関関係がみられた。

4)跳力＝垂直とび

垂直とびが体格や体力運動能力などにどんな相関々係にあるかをみると（表3）、中学期で、身長、体重に有意（P<0.01）な関係がみられ、高校期では18歳の身長が有意（P0.01）でその他の種目とでは有意な関係がみられなかった。青年期の22歳で身長だけが有意（P<0.05）であった。

体力診断では、中学期の反復横とび、背筋力、握力（左・右)、伏臥上体反らし、体前屈、踏台昇降運動の種目が有意（P<0.01～P<0.05）で、しかし、13歳と14歳の体前屈と踏台昇降運動などには有意でなかった。

高校期の反復横とび、背筋力、握力（左・右)、伏臥上体反らし、体前屈などが有意（P<0.01～P<0.05）で、16歳から18歳の踏台昇降運動では有意ではなかった。

青年期の19歳の反復横とび、背筋力、握力（右)、踏台昇降運動や20歳の握力、体前屈と21歳の握力などの種目では有意（P<0.01～P<0.05）で、その他の種目では係数も小さく、有意ではなかった。

運動能力との種目をみると、中学期の50 m 走、走り幅とび、ハンドボール投げなどでは相関係数も高く、有意（P<0.01）で、高校期の50 m 走、走り幅とび、ハンドボール投げ、懸垂の種目でも有意（P<0.01～P<0.05）であったが、しかし、15歳と16歳の1500 m 走は有意でなかった。

青年期の19歳から21歳では、50 m 走、走り幅とび、ハンドボール投げ、1500 m 走の種目では有意（P<0.01～P<0.05）であった。

全体的にみると垂直とびとの相関関係では、反復横とび、背筋力、握力や50 m 走、走り幅とび、ハンドボール投げの種目とに深い関係がみられた。

Ⅳ. 考　察

〔体　格〕

中学期・高校期の発育発達期にあるハンドボール選手は、運動群と比べ差はみられない。

ハンドボール競技の特性からみても、長身者は有利であることはよく知られているところである。トップレベルにある全日本選手たちの身長は、182.0±4.5 cm（ソウル・オリンピック予選1987）である。

一方世界のトップレベルにあるチームの平均身長は190 cm で、このように日本チームは、平均で約8 cm 低く、ゲーム中の攻防において不利な場面に遭遇することが多くみられる。その解決策としては、ジュニア選手たちの長身者を発掘し、その選手たちをトレーニ

ングし、世界水準の競技力を磨くことが急務である。

〔走　力〕

ハンドボール競技は、走・投・跳の基本的運動要素の多いスポーツであり、その一要素である走力をみると（図3-1）50 m 走での、中学期と高校期の段階では運動群との比較ではほとんど同じ水準にある。また、1500 m 走（図3-2）でも50 m 走の結果と似た傾向にある。我が国では、国際ルールが一部変更され、スピーディな試合展開が予測され、一層の無酸素パワーと有酸素パワーのトレーニングが要求されてきている。

ハンドボール競技は、1試合60分間にもおよぶ激しいスポーツでもある。阿部ら[4]の報告では、ハンドボール競技の運動強度は心拍数から推定すると80% Vo_2max という高い水準でゲームが行なわれ、1試合で距離にして3000 m から5000 m[2]走っており、1試合の模擬試合[4]での総攻撃回数では前半と後半とでは、両チームともに約80回、22秒間に1回は攻撃か防御に参加していることになる。ゲーム中は、ただ単にスピードを出して走っていればよいとう単純なものではなく、スピードの変化も要求され、ゲーム中に全力発揮して移動する距離は長くて20 m～30 m ほどで、3秒～5秒の時間であろう。位置どりのため移動する有酸素パワー、短い距離の走運動の無酸素パワーを備えていなければ走って有利なコースや位置どりはできない。このように試合中は不規則な無酸素運動と有酸素運動を連続的にくり返している。

さて、それでは有酸素パワーや無酸素的パワーを高めるトレーニング方法として、浅野・千葉たちは、ラグビー選手に、無気的パワートレーニング群としてスプリント・トレーニングを実施、有気的パワー、トレーニング群に持久性トレーニングを実施して、有気と無気パワー・トレーニングを交互に実施する3群に分けてその効果をみた結果では、有気的トレーニングは、無気的パワーおよび有気的パワーを共に改善する可能性があると報告している。

また、最近のフランスの「ハンドボール選手達の乳酸的無酸素代謝の範囲」[12]の報告では、「ゲーム中の乳酸値によって有酸素性パワー発揮の場面と無酸素性パワー発揮の場面を区分すると、無酸素パワーを発揮する場面ははるかに多くなっている」と述べている。

有酸素・無酸素パワーを高めるトレーニング方法としては、12分走や3000 m 走、さらに30秒から60秒間のインターバル・トレーニングなどを行なうことによってその効果が期待できる。国内での大型チームや日本選手が世界の大型チームに対戦するためには、走能力をさらに向上させ、体格の劣勢をスピーディな動きにより補う必要があろう。

〔ハンドボール投げ〕

ハンドボール競技の投げの主な目的は、速さ、距離、正確性があげられ、その「投げ」は「シュート」と「パス」に区分され、パスは主に片手（握る）で行なわれるスローで距離、速さ、正確性が要求され、シュートは特に正確性とスピードが要求される。そのハンドボール投げとの相関関係をみると、身長や体重、垂直とび、背筋力、握力、50 m 走などの種目に密接な相関関係を示している（$P<0.01～0.05$）。

特に近年ボールを片手で握って試合を有利に進める傾向にあり、握力の強化が必要である。

著者[3]は投能力と筋力との関係を調べた結果、手・肘・膝・足関節の筋力と遠投距離との間に有意な相関関係がみられ、また北川[9]石井[8]ら宮崎[14]らは投球距離やボールスピードと形態や筋力に密接な関係があることを報告している。

針生[13]は、11歳から14歳の生徒の発達と運動能力の関係の調査結果では、投力と体格（身長、体重、胸囲）との正の相関関係があり、この年代では、体格が大きいほど投運動能力が優れていると報告しており、本研究の結果もこれと一致する考察を得た。

さらに豊島[10]らは投げ出されるボール速度はそのほぼ50％の速度が腕以外の身体の働きかけによって生み出されるものであり、すなわち、またその構成要素としては体格と体力とその増大増強を重要な要素としてあげており、また投てき物を投げるための最大の条件は、投てき物に与える速度で、上体や脚と腰を十分に用いた全身的なダイナミックな投運動技能であると報告している。

また、石井[7]は投動作のメカニズムについて次のように述べている。

強靱でしなやかな投げの動作とは、ムチ効果のように最終的なボールの速度を加重させることと、それぞれの身体部位の貢献度が第1次的条件として、体幹の捻り、前腕の振り、そして手のスナップ動作があげられ、第2次的条件の微調整として、スナップの使い方によると指摘している。以上のように、ハンドボール投げは全身的な筋力の協調作用によるところが非常に大きいことから、全身的な筋力の強化と投げの動作メアニズムなどを十分理解したうえで合目的トレーニングをすることによって投力が一段と向上するものと考えられる。

〔跳　力〕

跳能力はほとんどのスポーツ種目にみられる運動の基本的な要素である。また、垂直とびは下肢筋パワーの指標として測定されている。

ハンドボール競技において跳力が必要になる場面は、ディフェンスやゴールキーパーのボール阻止する動作やオフェインス・プレーヤーのジャンプシュートおよび空間を利用してのジャンプパスやキャッチなどに用いられている。

その跳躍は垂直方向へ高く跳ぶことや走り幅とびのように前方へのジャンプ、さらに左右の横方向へと、その目的や状況によってさまざまなジャンプ動作が要求されてくる。

その垂直とびと体格や運動能力の相関関係は（表３）中学期では身長、体重[13]に相関係数も高く、有意（P<0.01～P<0.05）な関係がみられる。また、敏捷性の指標としての反復横とび、筋が指標としての背筋力や握力や、50 m 走、走り幅とび、ハンドボール投げのパワー系などの種目に有意（P<0.01～P<0.05）な相関関係がみられる。

一方、ハンドボール選手たちの垂直とびをみると（図５）、中学期、高校期の13歳から19歳ではハンドボール群と運動群とはほぼ同じ水準にあり、その中でも特に14歳と16歳では運動群のほうが有意に優れ、ハンドボール選手のパワーの不足がみられた。

これまで全日本ハンドボール男子選手がオリンピックに出場したときの垂直とびの値をみると、ミュンヘン・オリンピック（1972）からソウル・オリンピック予選（1987）の15年間で僅か２cm の伸びで、ほとんど変化がみられずパワーが不足していることが推測される。この傾向は、脚屈伸筋力の低下傾向とも一致している[2]。

将来のハンドボール競技はゴール前での攻防ばかりではなく、コート全面にわたって激しい攻防戦が多くなることが予測され、特にゴール前では厚い防御の壁に直面し、試合を有利に進めていくためにも、高い空間を利用してのプレーが必要でもあることから優れた跳躍力を身につけていなければならない。

我が国のハンドボール選手たちの現在の跳躍力の水準が限界に達しているのだろうかと考えた場合、向上の可能性は追究できると思われる。すなわち、下肢筋力の強化のための適切なジャンプトレーニングを行なうことによって十分の向上効果が期待できるであろう。

日本バレーボール協会では、ジャンプ力の強化に積極的に取り組んでその効果をあげている。

日本バレーボールチームでは、世界のトップレベルの垂直跳を1977年ワールドカップの調査結果から80 cm 以上と規定し、その目標値を定めその値に近づくためのトレーニングを行なった結果、全日本チームが１年間（1972）8.8 cm また５ヵ月（1980）７cm、７週間（1981）7.1 cm の向上した報告もある[11]。

日本ハンドボール選手たちにとって、高いジャンプが要求されることから、戦術、戦法の確立や技術の追求と相まって積極的に跳躍力向上のためにトレーニングを行なうべきであろう。

まとめ

本研究は、ハンドボール選手における年齢別による、走・投・跳力と体格・体力・運動能力とにどのような相関関係と、ハンドボール選手と運動群との比較について調べた。

① 体格の身長では、ハンドボール選手と運動群と比べて、中学期・高校期ではほとんど差がなかった。

② 走力の50 m 走では、ハンドボール選手と運動群との比較で、中学期、高校期で差はなかった。1500 m 走でもほぼ同じ傾向であり、有酸素パワー、無酸素パワーの向上が望まれる。

③ ハンドボール投との相関々係では、身長、体重、垂直とび、背筋力、握力、50 m 走の種目に密接な関係にたった（P<0.01～P<0.05）、技能力の向上として、全身的な筋力強化の必要性が示唆された。

④ 跳能力の垂直とびとの相関々係では、反復横とび、背筋力、握力や50 m 走、走り幅とび、ハンドボール投げの種目とに深い関係が認められた（P<0.01～P<0.05）。

⑤ ハンドボール選手と運動群の垂直とびの比較では、中学期・高校期でほぼ同じ水準であり、特に発育発達期のハンドボール選手の跳能力の向上が望まれる。

〔文　献〕

1．浅野勝己、千葉智則：ラグビー競技者の有気的および無気的パワートレーニングに関する研究、昭和60年度日本体育協会スポーツ科学研究報告、13—20、1985.

2．阿部徳之助、竹内正雄、西山逸成：オリンピックに出場した男子ハンドボール選手の体力の現状と今後の課題について：ハンドボール協会機関誌、No. 268、18—21、1987.

3．阿部徳之助他：技能力と筋力の関係について：自治医科大学紀要、4、29—35、1981.

4．阿部徳之助、森川寿人、竹内正雄、西山逸成他：国内ルールと国際ルールによるハンドボール競技がゲーム時の運動強度とゲーム構成に与える影響について：スポーツイベント，VOL 10、No. 3、1988.

5．阿部徳之助他：ハンドボールプレーヤーの体力に関する横断的研究、昭和60年日本体育協会スポーツ医科学研究報告、71—81、1985.

6．阿部徳之助、竹内正雄、西山逸成、森川寿人他：1987年男子ジャパンカップの日本、ユーゴ、西ドイツチームの体格、形態、体力の比較と今後の課題について、スポーツイベント VOL 9、No. 12、63—65、1987.

7．石井喜八、斉藤好史：強靱でしなやかな投げ：Japanese Journal of SPORTS SaENCES. VOL 1、No. 2、79—84、1982.

8．石井喜八他：ハンドボールの投球動作について体育学研究、5(1)：158、1960.

9．北川勇喜他：ハンドボールの投力に関する研究、体育学研究、15(5)：211、1971

10．Toyoshima, S. et al.：Contribution of the body parts to throwing perfomance, Biomechanics 4：169—174．1974

11．豊田　博他：ジャンプ力向上に関する研究
——階段かけ上りによるトレーニング効果——
昭和56年度日本体育協会スポーツ医科学研究報告、39—59、1981.

12．西山逸成、石井喜八：Extent of Lactic Anaerobic Metabolism in Handbollers：Delamarche, P. et al, Int, J. Sports Med. 8（1987）翻訳：スポーツイベント VOL 8、No. 7、1987.

13．針生敏雄：同一学年児童生徒における発・体力・知能の差異について、第３報、発育と運動能力・知能との関係、民族衛生、26(3)、284—299、1960.

14．宮崎顕一郎他：ハンドボールの投球動作の分析（その３）投球距離と敏捷性との関係について、体育学研究、7(1)：198、1962.

各地学生春季リーグ戦

東北学生春季リーグ戦

（5月9日～12日／福島体育館、福島大体育館）

▼男子1部

岩手大	22	8－8	14－7	15	東北学院
岩手大	25	12－14	13－10	24	福島大
岩手大	29	16－11	13－14	25	仙台大
岩手大	37	20－12	17－8	20	山形大
岩手大	50	23－5	27－10	15	宮城教大
東北学院	25	12－11	13－7	18	福島大
東北学院	34	19－15	15－11	26	仙台大
東北学院	35	22－11	13－10	21	山形大
東北学院	42	22－11	20－8	19	宮城教大
福島大	24	15－11	9－11	22	仙台大
福島大	35	19－6	16－5	11	宮城教大
仙台大	24	15－11	9－13	24	山形大
仙台大	31	18－9	13－8	17	宮城教大
山形大	27	11－17	16－10	27	宮城教大

〔順位〕①岩手大（5勝）②東北学院大（4勝1敗）③福島大（3勝2敗）④仙台大（1勝3敗1分）⑤山形大（2分3敗）⑥宮城教大（5敗）

▼男子2部

東北福祉	28	－	17	東北大
東北福祉	37	－	11	東北学工学部
東北福祉	39	－	12	弘前大
東北福祉	51	－	14	秋田大
東北福祉	54	－	12	日大工学部
東北大	45	－	18	東北学工学部
東北大	22	－	14	弘前大
東北大	48	－	13	秋田大
東北大	47	－	22	日大工学部
東北学工学部	33	－	30	弘前大
東北学工学部	36	－	30	秋田大
東北学工学部	41	－	20	日大工学部
弘前大	33	－	30	秋田大
弘前大	23	－	17	日大工学部
秋田大	34	－	26	日大工学部

〔順位〕①東北福祉大②東北大③東北学工学部④弘前大⑤秋田大⑥日大工学部

▼女子

東北福祉	25	12－8	13－8	16	岩手大
東北福祉	30	15－7	15－6	13	福島大
東北福祉	41	18－3	23－5	8	山形大
東北福祉	40	20－5	20－2	7	宮城教大
岩手大	15	6－6	9－7	13	福島大
岩手大	36	15－10	21－7	17	山形大
岩手大	47	22－3	25－4	7	宮城教大
福島大	22	12－9	10－7	16	山形大
福島大	41	20－5	21－0	5	宮城教大
山形大	35	16－7	19－3	10	宮城教大

〔順位〕①東北福祉大（4勝）②岩手大（3勝1敗）③福島大（2勝2敗）④山形大（1勝3敗）⑤宮城教大（4敗）

▼入替戦

〈男子〉

宮城教大（1部6位）	15	6－15	9－18	32	東北福祉（2部1位）
山形大（1部5位）	27	13－12	14－14	26	東北大（2部2位）

関東学生春季リーグ戦

▼男子1部

日体大	21	13－11	8－10	21	順大
早大	30	16－13	14－13	26	法政
中央	20	11－9	9－3	12	国士館
日大	26	14－10	12－10	20	筑波大
早大	29	13－13	16－6	19	国士館
順大	20	11－12	9－7	19	筑波大
日大	26	14－9	12－9	18	日体大
中央	19	12－10	7－9	19	法政
日体大	25	16－8	9－12	20	法政
筑波大	25	14－6	11－7	13	国士館
早大	22	8－12	14－9	21	順大
日大	26	19－9	7－6	15	中央
中央	22	12－11	10－10	21	順大
日大	27	16－13	11－11	24	早大
筑波大	31	14－11	17－3	14	法政
国士館	25	13－7	12－11	18	日体大
日大	36	16－11	20－6	17	法政
国士館	18	9－6	9－11	17	順大
日体大	26	16－9	10－11	20	中央
早大	23	12－12	11－9	21	筑波大
日大	23	10－9	13－12	21	国士館
筑波大	25	14－6	11－6	12	中央
順大	27	16－11	11－8	19	法政
日体大	25	16－15	9－9	24	早大
順大	22	12－10	10－11	21	日大
国士館	32	16－13	16－7	20	法政
早大	26	15－14	11－11	25	中央
筑波大	27	13－11	14－7	18	日体大

〔順位〕①日本大（6勝1敗）②早大（5勝2敗）③筑波大（4勝3敗）④順大（3勝3敗1分）⑤日体大（3勝3敗1分）⑥国士館大（3勝4敗）⑦中央大（2勝4敗1分）⑧法政大（6敗1分）

▼男子2部

慶応大	33	－	16	明星大
東海大	23	－	17	東経大
明大	21	－	14	国武大
学芸大	17	－	14	上智大
明大	27	－	16	上智大
慶応大	33	－	22	東経大
東海大	26	－	12	明星大

慶応大	26－21	東海大
明大	28－18	学芸大
国武大	21－17	上智大
東経大	22－20	明星大
国武大	29－21	明星大
明大	23－20	慶応大
東海大	24－24	学芸大
東経大	18－17	上智大
東海大	22－16	明大
慶応大	22－18	学芸大
東経大	21－20	国武大
明星大	25－22	上智大
慶応大	36－16	上智大
東海大	24－18	国武大
明大	27－12	東経大
学芸大	27－17	明星大
慶応大	28－16	国武大
明大	30－14	明星大
学芸大	20－18	東経大
東海大	37－18	上智大
学芸大	22－17	国武大

〔順位〕①慶応大（6勝1敗）②明大（6勝1敗）③東海大（5勝1敗1分）④学芸大（4勝2敗1分）⑤東経大（3勝4敗）⑥国武大（2勝5敗）⑦明星大（1勝6敗）

▼男子3部

東大	27－19	芝工大
青学	24－15	駒大
茨大	25－20	理科大
青学	19－15	東大
芝工大	15－14	駒大
茨大	18－15	防大
理科大	26－22	武工大
東大	18－13	武工大
茨大	27－19	駒大
青学	35－20	理科大
武工大	25－20	駒大
芝工大	33－25	理科大
茨大	21－17	東大
青学	30－21	防大
東大	20－19	防大
青学	33－17	武工大
駒大	19－17	理科大
茨大	26－23	芝工大
防大	26－24	武工大
芝工大	25－18	防大
東大	26－20	理科大
防大	22－18	駒大
芝工大	34－33	武工大
青学	17－17	茨大
青学	31－18	芝工大
茨大	27－25	武工大
理科大	26－20	防大
東大	35－24	駒大

〔順位〕①青学大②茨城大③東大④芝工大⑤防衛大⑥理科大⑦武工大⑧駒沢大

▼男子4部

一橋大	26－17	東工大
神大	31－21	千葉大
立教大	19－15	専修大
横商大	33－19	東農大
横商大	19－18	一橋大
神大	16－15	立教大
東工大	25－20	東農大
専修大	33－19	千葉大
横商大	30－22	神大
立教大	24－20	一橋大
東工大	24－24	専修大
東農大	27－20	千葉大
一橋大	27－18	千葉大
東工大	26－21	神大
専修大	21－20	横商大
東農大	17－13	立教大
立教大	28－28	東工大
専修大	28－24	一橋大
神大	26－20	東農大
横商大	35－33	千葉大
東工大	29－22	千葉大
神大	23－18	一橋大
専修大	31－20	東農大
立教大	26－23	横商大
一橋大	22－14	東農大
専修大	33－21	神大
立教大	24－22	千葉大
横商大	33－17	東工大

〔順位〕①横商大②専修大③立教大④神大⑤一橋大⑥東工大⑦東農大⑧千葉大

▼男子5部

創価大	24－16	都留文
横国大	36－26	帝京大
拓大	48－14	農工大
東洋大	39－20	横市大
東洋大	45－26	農工大
横国大	32－8	創価大
帝京大	32－31	都留文
拓大	29－10	横市大
横国大	41－14	農工大
東洋大	36－29	創価大
都留文	27－18	横市大
拓大	25－22	帝京大
都留文	31－25	農工大
拓大	31－14	創価大
横国大	32－13	横市大
帝京大	36－28	東洋大
創価大	25－20	横市大
東洋大	48－26	都留文
拓大	23－22	横国大
帝京大	42－26	農工大
帝京大	50－22	横市大
創価大	36－15	農工大
拓大	36－25	都留文
東洋大	35－31	横国大
拓大	37－22	東洋大
帝京大	36－29	創価大
横国大	45－25	都留文
横市大	23－20	農工大

〔順位〕①拓殖大②横国大③帝京大④東洋大⑤創価大⑥都留文大⑦横市大⑧農工大

▼男子6部

産能大	16－14	明学大
関学大	30－19	都立大
千工大	26－7	独協大
文教大	26－23	埼玉大
産能大	39－16	都立大
明学大	24－18	埼玉大
文教大	27－20	独協大
千工大	37－18	関学大
文教大	22－21	産能大
明学大	36－22	関学大
千工大	29－20	埼玉大
都立大	22－22	独協大
産能大	26－25	埼玉大
関学大	26－24	独協大
千工大	32－23	都立大
明学大	24－20	文教大
埼玉大	26－23	独協大
明学大	42－15	都立大
産能大	45－15	関学大
文教大	30－12	千工大

産能大 29－22 独協大
埼玉大 28－27 関学大
明学大 25－21 千工大
文教大 30－19 都立大
産能大 22－22 千工大
埼玉大 24－21 都立大
文教大 30－29 関学大
明学大 24－14 独協大
〔順位〕①明学大②文教大③産能大④千工大⑤埼玉大⑥関学大⑦独協大

▼男子7部
日工大 12－0 群馬大
亜大 28－28 東外大
武蔵大 44－11 帝技大
亜大 27－21 武蔵大
東外大 36－16 帝技大
亜大 42－10 帝技大
東外大 25－20 武蔵大
東外大 12－0 群馬大
帝技大 12－0 群馬大
亜大 62－14 日工大
武蔵大 12－0 群馬大
亜大 12－0 群馬大
日工大 23－19 帝技大
東外大 45－18 日工大
玉川大 54－5 工芸大
玉川大 40－13 杏林大
成蹊大 53－14 工芸大
杏林大 35－19 工芸大
成蹊大 21－7 杏林大
玉川大 18－15 成蹊大
成蹊大 17－15 東外大
亜大 23－21 玉川大
〔順位〕①亜大②玉川大③成蹊大④東外大⑤武蔵大⑥杏林大⑦日工大⑧帝技大⑨工芸大⑩群馬大⑪大文大

▼女子1部
東女体大 34－9 東海大
日体大 52－5 千明短
筑波大 22－15 日女体大
日体大 46－6 千明短
筑波大 35－10 日女体大
東女体大 39－6 東海大
東女体大 39－8 千明短
筑波大 31－8 東海大
日体大 34－11 日女体大
日体大 30－17 日女体大
筑波大 32－4 東海大
東女体大 38－11 千明短
東海大 21－10 千明短
日体大 19－18 筑波大
東女体大 25－11 日女体大
千明短 21－18 東海大
筑波大 27－26 日体大
東女体大 21－9 日女体大
日女体大 29－14 千明短
日体大 34－10 東海大
筑波大 17－15 東女体大
日体大 33－5 東海大
日女体大 26－11 千明短
筑波大 26－17 東女体大
日女体大 16－10 東海大
筑波大 51－8 千明短
日体大 26－22 東女体大
日女体大 16－9 東海大
筑波大 56－7 千明短
東女体大 23－15 日体大
〔順位〕①筑波大（9勝1敗）②日体大（8勝2敗）③東女体大（7勝3敗）④日女体大（4勝6敗）⑤東海大（1勝9敗）⑥千明短大（1勝9敗）

▼女子2部
千葉大 19－13 文教大
学芸大 50－0 文教大
玉川大 18－17 千葉大
玉川大 14－11 都留文
学芸大 28－2 千葉大
都留文 14－8 千葉大
茨城大 42－8 文教大
学芸大 36－8 玉川大
茨大 30－8 都留文
茨大 27－6 玉川大
学芸大 44－8 都留文
玉川大 25－6 文教大
茨大 37－12 千葉大
〔順位〕①学芸大②茨城大③玉川大④都留文⑤千葉大⑥文教大

▼入替戦
〈男子〉
文教大（6部2位）29〔13－8、16－2〕10 横市大（5部7位）
農工大（5部8位）21〔14－8、7－11〕19 明学大（6部1位）
中央大（1部7位）22〔8－11、14－9〕20 明大（2部2位）
法政大（1部8位）23〔10－7、13－15〕22 慶応大（2部1位）
玉川大（7部2位）24〔12－8、12－9〕17 独協大（6部7位）
亜大（7部1位）37〔20－12、17－6〕18 都立大（6部8位）
農大（4部7位）28〔12－12、16－12〕24 横国大（5部2位）
拓大（5部1位）34〔19－9、15－9〕18 千葉大（4部8位）
専修大（4部2位）43〔22－13、21－10〕23 武工大（3部7位）
横商大（4部1位）25〔14－10、11－8〕18 駒沢大（3部8位）
茨大（3部2位）28〔17－11、11－15〕26 明星大（2部7位）
青学大（3部1位）26〔13－10、13－8〕18 上智（2部8位）

中・四国学生春季リーグ戦
（5月12～14日／鳥取市民体育館）

▼男子1部
広島大 21－19 山口大
山口大 27－13 松山商大
山口大 25－18 高知大
山口大 25－22 香川大
松山商大 22－19 広島大
広島大 18－17 高知大
広島大 23－20 香川大
松山商大 22－21 高知大
松山商大 25－21 香川大
高知大 24－19 香川大
〔順位〕①山口大②広島大③松山商大④高知大⑤香川大

▼男子2部
徳山大 22－21 島根大
徳山大 22－11 岡山大
徳山大 26－19 愛媛大
徳山大 27－22 近畿大
島根大 19－16 岡山大
島根大 17－10 愛媛大
島根大 23－16 近畿大
岡山大 21－9 愛媛大
岡山大 28－13 近畿大
愛媛大 21－11 近畿大
〔順位〕①徳山大②島根大③岡山大④愛媛大⑤近畿大

▼男子3部
広島工大 18－17 鳥取大
広島工大 44－9 岡山理大
鳥取大 42－5 岡山理大
修道大 25－15 徳島大
修道大 31－6 四国学院
徳島大 23－15 四国学院
▽5、6位決定戦
四国学院大 23－14 岡山理大
▽3、4位決定戦
鳥取大 28－17 徳島大
▽決勝
広島工大 19－12 広島修道大

▼女子1部
広島大 16－11 岡山県短
広島大 20－8 岡山大
広島大 20－8 山口大
岡山県短 17－13 岡山大
岡山県短 22－16 山口大
岡山大 14－14 山口大
〔順位〕①広島大②岡山県立短期大③岡山大④山口大

▼女子2部
愛媛大 20－12 高知大
愛媛大 26－6 香川大
愛媛大 32－7 岡山女短
高知大 18－12 香川大
高知大 34－6 岡山女短
香川大 24－4 岡山女短
〔順位〕①愛媛大②高知大③香川大④岡山女子短大

各地の記録から・・・

東北

第6回東北クラブ選手権青森県予選

（4月10日／七戸町立体育館）

〈男子〉

野辺地ク 31－18 七戸ユニオン
野辺地ク 29－26 七戸ユニオン
〔順位〕①野辺地ク②七戸ユニオン

〈女子〉

野辺地ク 18－13 七戸ク
あすなろク 26－15 七戸ク
あすなろク 27－22 野辺地ク
〔順位〕①あすなろク②野辺地ク③七戸ク

第15回青森県春季社会人選手権

（4月16、17日／野辺地町立体育館）

〈男子〉

▼1回戦
海自2群A 19－16 海自大湊
海自2群B キケン 青森教員

▼2回戦
七戸ユニオン 32－17 海自2群A
青商ク 23－19 野辺地クB
野辺地クA 33－11 弘前大
青森ク 35－24 海自2群B

▼準決勝
七戸ユニオン 32－22 青商ク
野辺地クA 42－18 青森ク

▼決勝
野辺地クA 40（16－16　24－11）27 七戸ユニオン

〈女子〉

野辺地ク 24－14 七戸ク
あすなろク 37－19 七戸ク
野辺地ク 17－16 あすなろク
〔順位〕①野辺地ク②あすなろク③七戸ク

第38回青森県高校春季選手権

（5月7、8日／柏木農高）

〈男子〉

▼1回戦
青森東 33－16 弘前南
十和田工 28－18 鯵ヶ沢
青森山田 17－15 三本木
青森 31－20 横浜分校
今別 34－17 五所川原
柏木農 17－12 七戸
野辺地 25－14 青森南

▼2回戦
青森商 41－13 青森東
十和田工 27－23 青森山田
今別 23－21 青森
野辺地 31－8 柏木農

▼準決勝
青森商 50－9 十和田工
野辺地 19－16 今別

▼決勝
青森商 30（14－7　16－10）17 野辺地
※青森商は4年連続8回目の優勝

〈女子〉

▼1回戦
今別 29－4 野辺地工

▼2回戦
青森西 30－10 今別
三本木 18－6 青森商
青森中央 31－6 七戸
野辺地 39－8 青森東

▼準決勝
青森西 24－8 三本木
青森中央 15－11 野辺地

▼決勝
青森西 19（10－7　9－5）12 青森中央
※青森西は4年連続16回目の優勝

第40回岩手県高校総体

（6月4～6日／場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
岩手 19－16 宮古
一関工 23－17 花巻農
大迫 19－9 久慈山形
生活学園 27－17 西和賀
福岡 14－10 久慈

▼2回戦
盛岡一 24－8 岩手
盛岡三 14－12 一関工
盛岡商 32－12 水沢
大迫 21－21（PTC2－1）釜石南
花巻北 31－10 生活学園
盛岡南 32－3 福岡
一関一 26－8 一戸
盛岡西 24－7 福岡

▼3回戦
盛岡一 22－10 盛岡三
盛岡南 20－16 大迫
花巻北 22－18 盛岡南
盛岡西 31－14 一関一

▼準決勝
盛岡一 18－14 盛岡商
花巻北 25－13 盛岡四

▼決勝
盛岡一 22（14－6　8－7）13 花巻北

〈女子〉

▼1回戦
盛岡三 14－5 水沢
花巻北 23－4 岩手女
釜石南 21－2 久慈山形

▼2回戦
花巻南 17－4 盛岡三
向中野学園 12－6 釜石商
盛岡南 13－5 盛岡四
花巻北 15－2 白百合学園
黒沢尻南 15－0 岩泉田野畑
一戸 16－8 商古
花巻農 14－10 平館
盛岡二 15－7 釜石南

▼3回戦
花巻南 19－7 向中野学園
花巻北 13－5 盛岡南
黒沢尻南 14－12 一戸
盛岡二 22－11 花巻農

▼準決勝
花巻北 18－9 花巻南
盛岡二 13－6 黒沢尻南

▼決勝
盛岡二 16（8－4　8－4）8 花巻北

第41回青森県高校総体

（6月4～6日／野辺地町）

〈男子〉

▼1回戦
青森 30－20 鯵ヶ沢
七戸 16－14 弘前南
今別 17－11 青森南
十和田工 26－14 柏木農
青森東 36－16 青森山田
三本木 20－19 五所川原
野辺地 34－12 横浜分校

▼2回戦
青森商 36－13 青森
今別 34－9 七戸
青森東 31－16 十和田工
野辺地 30－14 三本木

▼準決勝
青森商 26－14 今別
野辺地 26－22 青森東

▼決勝
青森商 27（17－8　10－14）22 野辺地
※青森商は2年連続11回目の優勝

〈女子〉

▼1回戦
野辺地工 15－7 七戸

▼2回戦
青森西 54－5 野辺地工
野辺地 20－8 今別
青森商 14－13 三本木
青森中央 38－9 青森東

▼準決勝
青森西 28－11 野辺地
青森中央 27－6 青森商
▼決勝
青森西 25（9－8、16－9）17 青森中央
※青森西は19年連続優勝。

関東

千葉県実業団春季リーグ戦

（4月16、17、24日／出光千葉体育館）

▼1部リーグ
コスモ石 31－23 三井石化
海自下総 38－20 三井石化
コスモ石 30－24 海自下総
コスモ石 22－20 出光千葉
出光千葉 23－21 三井石化
海自下総 22－19 出光千葉
三井石化 28－25 日産石化
コスモ石 35－24 日産石化
出光千葉 32－12 海自木補
海自下総 33－16 日産石化
三井石化 40－20 海自木補
海自下総 33－16 日産石化
三井石化 40－20 海自木補
海自下総 35－14 海自木補
コスモ石 41－17 海自木補
日産石化 34－15 海自木補
出光千葉 35－18 日産石化
〔順位〕①コスモ石②海自下総③出光千葉④三井石化⑤日産石化⑥海自木補

第6回千葉県中学春季大会

（4月29日、5月1、3日／逆井中、市川体育館）

〈男子〉
▼1回戦
木間ヶ瀬 16－13 流山南部
葛飾 キケン 越智
若松 14－11 磯辺二
見明川 17－14 誉田
▼2回戦
福栄 28－3 木間ヶ瀬
市川 24－8 柏南部
野田一 31－5 花見川二
妙典 25－3 葛飾
富岡 14－11 若松
東邦 18－3 柏三
花園 27－14 河原塚
逆井 27－9 見明川
▼3回戦
福栄 25－13 市川
妙典 14－12 野田一
東邦 12－11 富岡
逆井 13－12 花園
▼準決勝
福栄 18－9 妙典
逆井 16－13 東邦
▼決勝
福栄 14（6－5、8－3）8 逆井

〈女子〉
▼1回戦
佐原二 21－5 柏三
湖北台 7－3 貝塚
磯辺二 7－6 聖徳
大栄 12－7 葛飾
▼2回戦
野田一 21－9 佐原二
東国分 21－8 西志津
逆井 13－12 市川二
福栄 24－6 湖北台
昭和 14－0 磯辺二
二宮 10－5 こてはし台
妙典 25－3 上志津
花園 22－10 大栄
▼3回戦
野田一 26－4 東国分
福栄 24－12 逆井
昭和 14－5 二宮
花園 18－11 妙典
▼準決勝
野田一 22－6 福栄
花園 15－9 昭和
▼決勝
野田一 17（9－4、4－9、2－1、2－1）15 花園

千葉県高校総体

（5月7、8、15日／市川市民体育館）

〈男子〉
▼1回戦
市川 31－5 渋谷幕張
泉 22－15 柏陵
東葛飾 31－5 四街道
房総学園 28－4 秀明八千代
学館浦安 29－22 土気
幕張北 15－13 国府台
船橋旭 15－12 市川西
佐原 22－6 小金
八千代 24－9 我孫子
東京学館 11－7 市原
二松沼南 26－9 船橋東
柏南 12－7 松戸六実
若松 26－12 木更津
流山中央 19－15 船橋西
浦安南 16－12 県柏
東邦 35－13 拓大紅陵
▼2回戦
市川 34－7 泉
房総学園 21－15 東葛飾
学館浦安 25－11 幕張北
佐原 20－8 船橋旭
八千代 19－13 東京学館
柏南 18－17 二松沼南
若松 34－10 流山中央
東邦 37－7 浦安南
▼準々決勝
市川 33－12 房総学園
学館浦安 13－11 佐原
八千代 18－16 柏南
東邦 26－11 若松
▼準決勝
市川 29－11 学館浦安
東邦 19－11 八千代
▼3位決定戦
八千代 20－18 学館浦安
▼決勝
市川 19（12－5、7－8）13 東邦

〈女子〉
▼1回戦
専大松戸 26－5 生浜
流山中央 16－15 明徳
松戸六実 13－10 市立松戸
東金女 12－3 四街道

佐原 18―6 松戸秋山
幕張北 16―10 土気
御宿家政 24―3 泉
柏南 11―6 若松

▼2回戦
昭和学院 31―4 専大松戸
東葛飾 13―10 流山中央
渋谷幕張 キケン 松戸六実
東邦 24―2 東金女
佐原 14―12 佐原女
幕張北 13―12 聖徳
御宿家政 23―3 若葉看護
和洋女 17―3 柏南

▼準々決勝
昭和学院 43―6 東葛飾
東邦 21―5 渋谷幕張
佐原 13―6 幕張北
和洋女 22―8 御宿家政

▼準決勝
昭和学院 30―1 東邦
和洋女 22―8 佐原

▼3位決定戦
東邦 17―12 佐原

▼決勝
昭和学院 14（5―6、9―5）11 和洋女

関東高校茨城県予選会

（5月12～14日／岩井高、岩井市民体育館他）

〈男子〉

▼1回戦
鉾田一 24―18 玉造工
土浦工 28―10 並木
太田一 20―16 波崎
土浦日大 20―12 笠間

▼2回戦
麻生 24―12 鉾田一
水海道一 28―7 牛久
竜ヶ崎一 16―12 土浦工
勝田 25―18 古河三
江戸川 23―19 八郷
竜ヶ崎南 24―23 太田一
岩井 20―9 水戸一
土浦湖北 28―19 土浦日大

▼3回戦
麻生 22―18 江戸川
岩井 24―18 竜ヶ崎一
水海道一 19―14 竜ヶ崎南
土浦湖北 41―18 勝田

▼決勝リーグ
麻生 19―12 水海道一
麻生 18―13 岩井
麻生 20―15 土浦湖北
土浦湖北 23―20 水海道一
岩井 26―24 土浦湖北
水海道一 20―18 岩井

〔順位〕①麻生②土浦湖北③岩井④水海道一

〈女子〉

▼1回戦
聖徳学園 19―4 藤代
岩井 27―14 高萩
岩井西 17―16 潮来
水海道一 28―22 愛国

▼2回戦
水海道二 20―14 聖徳学園
並木 17―11 笠間
結城二 26―9 岩井
竜ヶ崎一 17―16 竜ヶ崎二
鉾田二 25―20 鉾田一
牛久 25―18 岩井西
土浦二 17―8 日立二
麻生 27―17 水海道一

▼3回戦
水海道二 23―12 鉾田二
結城二 21―4 土浦二
牛久 20―16 並木
麻生 19―16 竜ヶ崎一

▼決勝リーグ
水海道二 32―10 牛久
水海道二 20―14 結城二
水海道二 18―10 麻生
結城二 14―10 麻生
麻生 28―17 牛久
結城二 29―16 牛久

〔順位〕①水海道二②結城二③麻生④牛久

埼玉県中学校大会

（5月22、24日／春日部市立中野中学校グランド）

〈男子〉

▼1回戦
南陵 22―16 喜沢
浅羽野 15―14 谷原

▼2回戦
朝霞五 22―11 南陵
大袋 29―4 北本西
吉川南 18―12 狭山ガ丘
富士見西 18―11 松山
榛松 15―14 田島
中野 29―6 行田見沼
大久保 24―15 十二月田
蓮田 22―9 浅羽野

▼3回戦
朝霞五 30―8 大袋
吉川南 18―11 富士見西
中野 13―11 榛松
蓮田 19―12 大久保

▼準決勝
朝霞五 15―13 吉川南
蓮田 17―15 中野

▼決勝
蓮田 20―19 朝霞五

〈女子〉

▼1回戦
八潮西 19―11 大袋
新座三 15―8 羽生西
小針 18―13 十二月田

▼2回戦
榛松 20―9 八潮西
川口芝 17―11 川口戸塚
八潮 15―4 春日部
松山 22―7 新座三
大久保 19―14 八潮三
中野 26―5 川口幸並
三郷東 16―1 北本西
吉川中央 31―3 小針

▼3回戦
榛松 16―7 川口芝
八潮 25―8 松山
中野 13―9 大久保
吉川中央 11―6 三郷栄

▼準決勝
榛松 25―16 八潮
吉川中央 16―11 中野

▼決勝
榛松 24―8 吉川中央

第6回千葉県クラブ春季リーグ戦

（5月29日／千葉県立柏南高校）

〈女子〉

和洋ク 23―12 菜の花ク
和洋ク 12―0 ファミールS
菜の花ク 12―0 ファミールS

〔順位〕①和洋クラブ②菜の花クラブ③ファミールS

東京都高校春季大会兼関東大会予選

（日付・場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
府中西 24―19 野津田
氷川 17―10 忠生
江戸川 25―15 白鴎
深川 21―16 江北
国立 23―16 小金井北
東大和 12―0 松が谷
佼成 12―4 南葛飾
本所 29―10 東
南多摩 22―12 東京菅生
府中東 16―10 館
武工大附 25―5 上野
大泉 20―7 青山学院
開成 20―15 安田学園
中大附 30―10 秋川
田無 17―15 明星学園
日大二 24―11 石神井
足立 12―0 篠崎
富士森 23―10 武蔵
調布北 30―11 久留米
広尾 35―10 高島
井草 16―14 鷺宮
錦城 20―17 砂川
武蔵野北 27―6 山崎
成城 24―12 世田谷工
早大学院 23―8 早実

保谷 20－18 武村山東
豊多摩 12－10 筑大駒場
明正 28－7 城西
新宿 16－14 荻窪
東大和南 19－12 福生
科学技術 18－15 片倉
大崎 17－14 蒲田
富士 15－8 雪ヶ谷

▼2回戦

府中西 46－10 南平
氷山 18－9 昭和
江戸川 14－11 江東工
学芸大付 15－9 深川
国立 24－13 立川
東大和 29－16 武蔵村山
西 20－9 佼成
本所 31－12 両国
南多摩 12－11 三鷹
日野 18－7 府中東
武工大附 15－10 南
大泉 26－19 開成
中大附 26－5 桜美林
日野台 33－18 田無
日大二 52－8 小石川
足立 21－20 城北学園
富士森 23－16 秋留台
調布北 19－11 清瀬
墨田川 23－15 広尾
修徳 36－7 井草
久留米西 32－11 錦城
五商 17－16 武蔵野北
小岩 26－10 成城
早大学院 22－21 駒大高
神代 20－18 保谷
昭和一工 17－15 小平南
明正 27－22 豊多摩

青山 22－10 新宿
国分寺 19－12 東大和南
南野 22－16 科学技術
大崎 15－10 大森東
富士 20－17 葛館野

▼3回戦

府中西 19－10 氷山
学芸大付 16－15 江戸川
国立 22－18 東大和
西 20－11 本所
日野 29－5 南多摩
大泉 23－14 武工大附
中大附 22－20 日野台
日大二 21－7 足立
調布北 16－9 富士森
修徳 26－14 墨田川
久留米西 40－11 五商
小岩 24－15 早大学院
神代 20－13 昭和一工
青山 27－21 明正
南野 24－9 国分寺
富士 21－11 大崎

▼4回戦

学芸大付 16－5 府中西
国立 24－14 西
日野 24－8 大泉
中大附 19－16 日大二
調布北 21－18 修徳
久留米西 22－21 小岩
神代 18－14 青山
南野 13－10 富士

▼5回戦

明星 26－5 学芸大付
国立 27－24 八王子東
府中 14－7 日野
東京 18－8 中大附

日体荏原 26－9 調布北
東村山 21－20 久留米西
農大一 16－12 神代
拓大一 28－2 南野

▼準々決勝

明星 38－15 国立
東京 21－9 府中
日体荏原 35－20 東村山
拓大一 23－10 農大一

▼準決勝

東京 25－24 明星
日体荏原 20－18 拓大一

▼3位決定戦

明星 19－18 拓大一

▼決勝

日体荏原 19（7－11、12－7）18 東京

〈女子〉

▼1回戦

田無 6－5 東大和南
日野 20－5 八王子東

▼2回戦

保谷 17－2 武蔵野北
調布北 11－2 野津田
葛飾野 11－3 一商
武蔵野女 35－3 福生
府中 11－9 羽村
墨田川 12－0 永福
富士 31－2 上野
国分寺 13－2 武村山東
田無 24－5 東村山
井草 12－11 西
園芸 24－4 雪ヶ谷
清瀬 16－2 東京菅生
五商 37－4 武蔵
青山学院 8－5 江戸川

桐朋 19－8 砂川

桐朋 31－6 砂川
文華女子 15－6 館
本所 14－2 目黒
明星学園 13－5 国立
日野 13－11 小平
学芸大附 10－6 大崎
東大和 10－4 農業
府中東 6－4 府中西
農大一 26－0 荻窪
小岩 18－16 八雲学園
日野台 15－5 共立第二
富士森 13－8 南野
三商 12－0 立教女

▼3回戦

保谷 15－4 調布北
葛飾野 12－11 豊多摩
府中 12－5 武蔵野女
富士 11－3 墨田川
田無 8－4 国分寺
井草 13－8 雪ヶ谷
五商 14－8 清瀬
青山学院 20－5 広尾
文華女子 18－10 桐朋
本所 17－3 篠崎
明星学園 16－13 日野
大崎 8－4 白鴎
東大和 20－1 府中東
小岩 13－11 農大一
日野台 9－8 富士森
日大二 14－3 三商

▼4回戦

保谷 11－5 葛飾野
府中 17－10 富士
田無 8－6 井草
青山学院 20－8 五商
文華女子 11－10 本所

明星学園 14－5 大崎
東大和 10－7 小岩
日野台 12－8 日大二
▼5回戦
佼成女子 19－2 保谷
府中 10－9 文大杉並
田無 9－8 菊華
藤村女子 13－7 青山学院
石神井 16－6 文華女子
日体桜華 17－9 明星学園
神代 12－10 東大和
江東商 23－11 日野台
▼準々決勝
佼成女子 37－8 府中
藤村女子 21－4 田無
日体桜華 14－13 石神井
江東商 28－8 神代
▼準決勝
佼成女子 28－16 藤村女子
日体桜華 16－15 江東商
▼3位決定戦
江東商 32－21 藤村女子
▼決勝
佼成女子 34（17－5、17－4）9 日体桜華

北信越

第33回長野県高校総体

（6月4、5日／更埴市民体育館 戸倉町総合体育館）

〈男子〉
▼1回戦
野沢北 26－5 臼田
野沢南 28－13 北部
小諸 22－13 松本美須々ヶ丘
坂城 32－13 北佐久農
長野東 21－11 上田千曲
▼2回戦
屋代 26－4 野沢北
小諸 20－17 野沢南
坂城 18－13 田川
上田 38－8 長野東
▼準決勝
屋代 21－9 小諸
上田 27－19 坂城
▼3位決定戦
小諸 24－17 坂城
▼決勝
屋代 27（13－12、14－3）15 上田

〈女子〉
▼1回戦
松本美須々ヶ丘 19－14 北佐久農
小諸商 35－7 小海
▼2回戦
屋代 57－11 松本美須々ヶ丘
田川 25－19 臼田
佐久 43－8 松本蟻ヶ崎
塩尻 33－9 小諸商
▼準決勝
屋代 20－12 田川
佐久 17－12 塩尻
▼3位決定戦
塩尻 25－9 田川
▼決勝
屋代 18（6－5、12－8）13 佐久

富山県高校総体

（6月4、5、6日／小杉高校）

〈男子〉
▼1回戦
富山中部 14－6 富山商
雄山 20－7 二上工
八尾 24－8 大沢野工
大門 16－4 呉羽
富山東 12－11 新湊
水橋 19－10 高明
▼2回戦
高岡向陵 34－11 富山中部
高岡 22－13 富山工
富山南 19－7 雄山
小杉 23－18 八尾
大門 17－14 高岡商
高岡南 25－11 富山
伏木 28－21 富山東
氷見 34－14 水橋
▼3回戦
高岡向陵 19－18 高岡
小杉 34－11 富山南
大門 27－17 高岡南
氷見 45－11 伏木
▼準決勝
高岡向陵 29－14 小杉
氷見 22－15 大門
▼3位決定戦
大門 16－14 小杉
▼決勝
氷見 23（11－4、12－8）12 高岡向陵

〈女子〉
▼1回戦
雄山 10－3 呉羽
富山女 14－3 高岡女
女子短附 24－2 新湊
有磯 15－4 高岡
高岡向陵 13－11 高岡第一
富山北部 15－10 氷見
▼2回戦
高岡商 27－3 雄山
富山女 13－8 女子短附
有磯 24－7 高岡向陵
小杉 20－11 富山北部
▼準決勝
高岡商 22－7 富山女
小杉 11－9 有磯
▼3位決定戦
富山女 13－9 有磯
▼決勝
高岡商 23（11－6、12－4）10 小杉

東海

第42回愛知県高校総体

（5月22、29日、6月5日／安城東高、三好高、豊田南高、ほか）

〈男子〉
▼1回戦
尾西 23－13 緑
犬山南 29－15 蒲郡
東海南 27－20 知立東
安城東 25－14 知多東
旭丘 27－18 豊橋西
一宮 18－15 岡崎
▼2回戦
岡崎城西 29－10 尾西
春日井東 28－21 犬山南
名南工 26－18 蒲郡東
愛知 25－15 東海南
中京 35－18 春日井南

安城東 21－19 小牧南
旭丘 19－7 半田
桜台 30－17 一宮

▼3回戦
岡崎城西 20－17 春日井東
名南工 29－26 愛知
中京 31－15 安城東
桜台 27－13 旭丘

▼決勝リーグ
名南工 26－25 岡崎城西
中京 29－22 桜台
中京 20－17 岡崎城西
桜台 30－23 名南工
桜台 31－21 岡崎城西
中京 25－25 名南工
〔順位〕①中京②桜台③名南工④岡崎城西

〈女子〉
▼1回戦
中京女 23－10 津島
岡崎東 30－12 国府
春日井 17－10 一宮商
武豊 20－19 安城学園
愛知商 24－11 半田商
岡崎西 18－12 一宮女

▼2回戦
名短付 39－7 中京女
半田東 24－19 岡崎東
三好 19－15 豊橋南
桜台 18－14 春日井
緑丘商 23－8 天白
尾西 30－16 武豊
愛知商 25－16 豊橋西
東海女 37－7 岡崎西

▼3回戦
名短付 22－5 半田東
桜台 14－10 三好
緑丘商 28－4 尾西
東海女 22－9 愛知商

▼決勝リーグ
名短付 38－9 桜台
東海女 23－14 緑丘商
名短付 25－11 緑丘商
東海女 19－3 桜台
東海女 20－19 名短付
緑丘商 20－14 桜台
〔順位〕①東海女②名短付③緑丘商④桜台

三重県高校総合大会

（5月28～30日／四日市市緑地体育館他）

〈男子〉
○Aブロック
▼1回戦
津 29－14 津工
桑名西 22－9 四日市西
亀山 27－21 桑名工

▼2回戦
四日市工 33－13 津
桑名西 18－13 亀山

▼3回戦
四日市工 20－5 桑名西

○Bブロック
▼1回戦
四日市南 31－8 上野工
津東 18－13 高田
尾鷲 20－9 四日市四郷

▼2回戦
桑名 24－12 四日市南
津東 28－7 尾鷲

▼3回戦
桑名 26－13 津東

○Cブロック
▼1回戦
津西 18－13 四日市中工
桑名北 33－2 川越
海星 16－15 名張西

▼2回戦
四日市 18－7 津西
桑名北 17－12 海星

▼3回戦
四日市 16－13 桑名北

▼7～9位決定戦
亀山 19－17 津
海星 17－13 津西
四日市南 22－18 尾鷲

▼4、5、6位決定戦（リーグ戦）
桑名西 21－16 桑名北
桑名西 21－16 津東
津東 24－9 桑名北

▼1、2、3位決定戦（リーグ戦）
四日市工 18－10 四日市
桑名 15－11 四日市工
桑名 25－13 四日市
〔順位〕①桑名②四日市工業③四日市④桑名西⑤津東⑥桑名北

〈女子〉
○Aブロック
▼1回戦
桑名 31－1 津西

▼2回戦
暁 38－0 桑名
四日市西 22－6 津

▼3回戦
暁 31－5 四日市西

○Bブロック
▼1回戦
名張西 24－20 四日市四郷
亀山 23－6 尾鷲

▼2回戦
四日市商 23－7 名張西
津東 23－7 亀山

▼3回戦
四日市商 19－4 津東

○Cブロック
▼1回戦
上野 11－9 川越
四日市南 35－2 松阪女子

▼2回戦
四日市 31－4 上野
四日市南 27－11 桑名西

▼3回戦
四日市南 12－6 四日市

▼7～9位決定戦
桑名 17－9 津
桑名西 19－11 上野
名張西 15－10 亀山

▼4、5、6位決定戦（リーグ戦）
四日市 14－10 四日市西
四日市西 8－8 津東
四日市 10－5 津東

▼1、2、3位決定戦（リーグ戦）
暁 19－4 四日市南
暁 21－8 四日市商
四日市商 17－5 四日市南
〔順位〕①暁②四日市商業③四日市南④四日市⑤四日市西⑥津東

近畿

滋賀県春季社会人選手権

（5月8日／守山市立守山女子高

校体育館〉

〈男子〉

▼1回戦

彦根西ク 12—0 守山ク
滋賀ハンターズ 12—0 八幡ク

▼準決勝

京セラク 13—6 彦根西ク
高島ク 19—10 滋賀ハンターズ

▼決勝

京セラク 23—18 高島ク

〈女子〉

▼決勝

滋賀ク 13—10 松下ク

滋賀県春季高校総体

（5月19—21日／彦根商業高校グランド他）

〈男子〉

□予選リーグ

○Aゾーン

長浜北 37—10 近江
長浜北 22—5 河瀬
河瀬 14—10 近江

○Bゾーン

野洲 40—2 能登川
野洲 35—9 彦根西
野洲 12—5 米原
米原 22—9 彦根西
米原 24—0 能登川
彦根西 28—2 能登川

○Cゾーン

八幡工 37—5 長浜商工
八幡工 15—14 安曇川
八幡工 13—10 高島
高島 17—4 安曇川
高島 44—2 長浜商工
安曇川 31—2 長浜商工

○Dゾーン

彦根東 21—6 比叡山
彦根東 12—4 彦根工
彦根工 17—4 比叡山

□決勝トーナメント

▼1回戦

長浜北 35—22 高島
野洲 19—13 彦根工
八幡工 26—11 河瀬
彦根東 26—20 米原

▼準決勝

長浜北 17—13 野洲
八幡工 20—16 彦根東

▼3位決定戦

野洲 26—19 彦根東

▼決勝

長浜北 28（15—8、13—9）17 八幡工

〈女子〉

□予選リーグ

○Aゾーン

彦根商 37—2 米原

○Bゾーン

彦根西 15—12 安曇川
河瀬 12—10 彦根西
安曇川 13—11 河瀬

○Cゾーン

安山女 19—13 八幡商
守山女 キケン 大津商
八幡商 キケン 大津商

○Dゾーン

彦根東 15—8 高島
彦根東 キケン 愛知
高島 30—5 愛知

□決勝トーナメント

▼1回戦

彦根商 41—4 八幡商
高島 21—7 彦根西
守山女 19—17 米原
彦根東 19—8 河瀬

▼準決勝

彦根商 35—4 高島
彦根東 21—18 守山女

▼3位決定戦

守山女 19—18 高島

▼決勝

彦根商 24（11—2、13—2）4 彦根東

四国

山口県学生選手権

（5月1、3日／山口大学本部体育館）

徳山 29—28 山口本部
山口医学 20—18 宇部高専
徳山 44—22 徳山高専
山口本部 46—25 山口医学
宇部高専 33—31 徳山高専
山口医学 32—29 徳山高専
山口本部 32—19 宇部高専
徳山 37—22 山口医学
山口本部 47—18 徳山高専
徳山 47—25 宇部高専

〔順位〕①徳山大②山口大本部③山口大医学部④宇部高専⑤徳山高専

第39回中国高校選手権

（5月7、8日／岡山工業高校グランド、岡山市総合文化体育館）

〈男子〉

▼1回戦

岩陽 22—7 倉敷工
呉昭和 33—17 倉吉工
境 32—11 松江南
総社 19—17 岩国
尾道 22—5 米子東
天城 22—5 江津
飯南 18—16 東岡山工
下松工 24—12 修道

▼2回戦

岩陽 29—14 呉昭和
境 18—17 総社
尾道 24—18 天城
下松工 30—12 飯南

▼準決勝

岩陽 19—11 境
尾道 13—11 下松工

▼決勝

岩陽 18（9—6、9—9）15 尾道

〈女子〉

岩国商 32—7 江津
児島 12—5 安芸南
松江女 24—8 米子南
山陽女 19—6 総社
西大寺 16—4 高水
境 32—6 広島一女
玉野光南 33—14 米子東
徳山商 30—3 松江一女

▼2回戦

岩国商 25—7 児島
山陽女 31—9 松江女
西大寺 14—12 境
徳山商 18—13 玉野光南

▼準決勝
岩国商 14－13 山陽女
徳山商 18－15 西大寺
▼決勝
岩国商 20（9－8、11－8）16 徳山商

第33回（女子16回）中国一般選手権

（5月21、22日／広島県立体育館）

〈男子〉
▼1回戦
湧永製薬 キケン 鳥取大
下関ク 23－19 桃太郎ク
境港ク 37－20 朝酌ク
岡山教員 30－21 広島大
自衛隊呉 30－9 島根大
山口教員 35－22 白桃ク
倉吉ク 30－21 松江工
日新製鋼 29－9 山口大
▼2回戦
湧永製薬 37－26 下関ク
境港ク 34－28 岡山教員
山口教員 43－30 自衛隊呉
日新製鋼 42－15 倉吉ク
▼準決勝
湧永製薬 37－27 境港ク
日新製鋼 34－22 山口教員
▼決勝
湧永製薬 27（16－10、11－10）20 日新製鋼

〈女子〉
▼1回戦
天城ク 16－15 山陽ク
山口教員 17－10 境港ク
徳山ク 25－17 広島大
広島ク 32－3 松江ク
▼準決勝
天城ク 28－17 山口教員
広島ク 21－17 徳山ク
▼決勝
広島ク 22（8－9、14－9）18 天城ク

鳥取県高校総体

（5月28、29日／倉吉産業高校）

〈男子〉
▼1回戦
境港工 17－5 倉吉東
米子北 17－16 米子西
倉吉工 13－9 米子東
▼2回戦
境 25－13 境港工
倉吉工 26－17 米子北
▼決勝
境 26（11－7、15－9）16 倉吉工

〈女子〉
▼1回戦
境 55－1 倉吉西
米子西 23－10 倉吉産
米子北 27－3 倉吉東
米子南 21－17 米子東
▼2回戦
境 30－10 米子西
米子南 18－15 米子北
▼決勝
境 22（11－4、11－7）11 米子南

九州

長崎県高校春季選手権

（4月23、24日／佐世保西高）

〈男子〉
▼1回戦
瓊浦 27－11 長崎北
長崎南 23－16 波佐見
長崎工 21－17 西彼杵
佐世保北 30－17 北陽台
佐世保西 21－13 上五島
大村 25－13 西海
口加 26－6 鹿工
日大高 22－9 佐世保商
▼2回戦
瓊浦 29－5 長崎南
佐世保北 27－15 長崎工
佐世保西 30－16 大村
日大高 31－6 口加
▼準決勝
瓊浦 44－8 佐世保北
日大高 33－11 佐世保西
▼3位決定戦
佐世保西 19－16 佐世保北
▼決勝
瓊浦 22（11－6、11－10）16 日大高

〈女子〉
▼1回戦
佐世保西 15－9 長崎北
▼2回戦
佐世保北 45－11 島原農
佐世保商 23－9 佐世保西
聖和 21－11 日大高
有馬商 16－9 佐世保女
▼準決勝
佐世保北 26－18 佐世保商
有馬商 16－9 聖和
▼3位決定戦
佐世保商 17－12 聖和
▼決勝
佐世保北 22（13－8、9－5）13 有馬商

鹿児島県高校総体

（日付、場所不明）

〈男子〉
▼1回戦
甲陵 36－12 薩南工
笠沙 49－21 加治木工
国分 36－5 志布志
鹿児島南 22－17 指宿
▼2回戦
大島 37－13 甲陵
加治木工 31－9 出水工
頴娃 23－13 甲南
鹿児島工 27－17 笠沙
出水 20－19 国分
鹿児島商 18－13 加世田
鹿児島中央 32－9 川内商工
隼人工 31－9 鹿児島南
▼3回戦
大島 29－20 加治木工
鹿児島工 25－12 頴娃
出水 21－14 鹿児島商
鹿児島中央 18－16 隼人工
▼決勝リーグ
大島 50－15 鹿児島中央
鹿児島工 22－14 出水
大島 38－15 出水
大島 34－25 鹿児島工
鹿児島工 26－17 鹿児島中央
鹿児島中央 14－12 出水
〔順位〕①大島②鹿児島工③鹿児島中央④出水

〈女子〉
▼1回戦
甲南 10－2 川辺
鹿児島純心 29－3 出水
鹿児島南 14－9 奄美
鹿児島中央 14－13 徳之島
川内商工 キケン 志布志
▼2回戦
牧園 35－5 甲南
鹿児島南 15－14 鹿児島純心
国分東 31－10 鹿児島中央
大島 41－7 川内商工
▼決勝リーグ
牧園 12－3 鹿児島南
国分実 25－13 大島
牧園 13－10 大島
国分実 15－14 牧園
国分実 21－13 鹿児島南
大島 18－11 鹿児島南
〔順位〕①国分実②牧園③大島④鹿児島南

財団法人日本ハンドボール協会競技者資格規程

（目的）

第１条　この規程は，財団法人日本体育協会が制定した「スポーツ憲章」の趣旨を受け，国際ハンドボール連盟の競技者資格規則に準拠して，競技者がアマチュアスポーツマンとして守らなければならない事項及びこれに関連した事項について規定することを目的とする。

（競技者の定義）

第２条　この規程において「競技者」とは，財団法人日本ハンドボール協会（以下「協会」という。）及びその加盟団体に登録する選手及び役員をいう。

（遵守義務）

第３条　協会及びその加盟団体の役員及び競技者は，常に品位と名誉を重んじ、礼儀と規律を守り、スポーツマンの模範となるよう行動しなければならない。

（競技者としての資格の喪失）

第４条　次の各号のいずれかに該当する者は，競技者としての資格を失うものとする。

(1)　報酬その他の物質上の利益を受けるためにハンドボール競技に参加し，若しくはハンドボールその他の競技のコーチを行なった者又はハンドボール競技への参加若しくはハンドボールその他の競技のコーチに関し報酬その他の物質上の利益を受ける契約を締結した者。但し，教職にある者がその職務としてハンドボールその他の競技を指導する場合又はクラブその他の団体の被用者がその職務及び地位に相応しい報酬を受ける場合を除く。

(2)　協会が禁止した競技会又は催事に参加した者

(3)　協会の事前の承認を得ることなく、競技者自身の氏名，肖像，競技の実績等を広告に使用することを許した者

(4)　協会の事前の承認を得ることなく，放送，座談会，演芸又は映画その他の行事に出演又は参加した者。但し、協会がハンドボール競技の普及、発展を目的とするものと認めたものについてはこの限りではない。

(5)　競技に際して，ドーピング又は暴力行為等フェアプレーの精神に明らかに違反した者

(6)　この規程に違反するなど競技者として相応しくないと協会が認めた者

（競技者が享受できる利益）

第５条　競技者は，試合及びその準備に関し，次の範囲内で金銭の支払その他の利益を受けることができる。

(1)　協会が支弁又は支給する次に掲げるもの

A　練習及び試合の期間の食費及び宿泊費

B　被服及び用器具

C　交通費

D　協会の定める小遣

E　医療，物理療法及び健康維持に要する費用

(2)　協会の定めるところにしたがって行なう正常の収入の補償

(3)　賞。但し，賞状，メタル，トロフィー，カップ，盾等を原則とし，副賞を授与するときは，競技会の品位を傷つけるものであってはならない。

(4)　競技者の能力を更に向上させるための奨学金

(5)　審判又はコーチの経費として協会の定めるもの

（報酬等の処理）

第６条　協会の事前の承認を得て行なわれた第４条（３）及び（４）に関し，その結果与えられた金銭その他の報酬は，個人の収益とせず，協会により受領され，その処理については協会で決定するものとする。

（被服又は用器具上の広告）

第７条　協会は、競技会において競技者が直接使用する被服又は用器具に協会が許可しない商標又は広告を記載したものを使用させてはならない。

2　前項の被服又は用器具への表示は、その用器具自体の高さの10年の１より大きくてはならない。また、その高さは10cmを越えてはならない。

3　第１項の規定により金銭の授受があった場合は，協会の収入とし，競技者の収益としてはならない。

（資格の審査）

第８条　競技者の資格の認定は，協会の懲罰委員会の審査の結果に基づいて理事会が決定するものとする。

2　競技者の資格を認めない決定をしたときは，本人及び本人の所属する団体に通告するものとする。

第９条　競技者の資格を失った者が次の各号に掲げる条件を備えるに至った場合は，協会の懲罰委員会の審査を経て理事会がその資格の復帰を決定するものとする。

(1)　資格を喪失してから満２年を経過していること。

(2)　反省が情が明らかで，再び資格を喪失するような行為をしないという誓約をすること。

第10条　第２条の決定に不服のある者は，協会に対し異議の申立てをすることができる。

附　則

1．この規程は，昭和63年７月９日から実施する。

2．財団法人日本ハンドボール協会アマチュア規程は廃止する。

未来をみつめる健康テクノ

asics
アシックス



アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

走る、跳ぶ、投げる。
制空権を得るためのスカイハンド®

より高い跳躍とより長い滞空時間。
よりコンパクトなテイクバックとスピーディなスローイング。
ここに至るには 地道な長い練習の日々と、勝負に臨んでの集中力と爆発力が必要である。
この日のために努力を重ねてきた選手たちに。
バイオメカニクスで育てられたウェアとシューズ。アシックスより送ります。

SKYHAND®
ASICS Handball Wear

asics® TIGER®
ASICS Handball Shoes

◆商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談課までどうぞ
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 ☎(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 ☎(03)624-1814(専用)・(03)624-2221(大代表)
■Ⓡは㈱アシックスの登録商標です。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第二七五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和六十三年六月二十五日 印刷
昭和六十三年七月一日 発行
東京都渋谷 [illegible]
電話 代表 [illegible]
振替 東京 [illegible]番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）